

科目名	声楽実技研究Ⅲ	科目ナンバリング	VM2M1C03		
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	声楽実技研究Ⅰ・Ⅱで学んだ声楽の基礎技術・言葉の発音を習得し、各自に応じた楽曲の演奏表現ができる。 *実技試験は4分以上6分以内の演奏、曲数、楽曲の種類は問わない。			
授業の概要	声楽実技研究Ⅰ・Ⅱにひきつづき、歌唱の基礎である身体の使い方、呼吸法を学びながら声に合った楽曲を選んで勉強していく。歌曲に加えオペラアリアも取り上げ、表現の幅を広げる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲7(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	3	各自課題曲7(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	4	各自課題曲7(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲7(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲8(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	7	各自課題曲8(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	8	各自課題曲8(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲8(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲9(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲9(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲9(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲9(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽実技研究Ⅳ	科目ナンバリング	VM2M1C04		
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※声楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	声楽の基礎技術・言葉の発音や表現法をさらに習得し、各自に応じた楽曲を深く理解した演奏表現ができる。 * 実技試験は4分以上6分以内の演奏、曲数、楽曲の種類は問わない。			
授業の概要	声楽実技研究Ⅲにひきつづき、歌唱の基礎である身体の使い方、呼吸法を学びながら声に合った楽曲を選んで勉強していく。楽曲の内容を深く掘り下げて研究し、表現につなげる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要をかくにんする	学修計画を立てる
	2	各自課題曲10(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	3	各自課題曲10(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	4	各自課題曲10(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	5	各自課題曲10(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	6	各自課題曲11(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	7	各自課題曲11(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	8	各自課題曲11(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する

	9	各自課題曲11(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	10	各自課題曲12(発声法・呼吸法)	発生、息の流れに留意した歌唱練習をする	発生を中心に指導内容をまとめて繰り返し練習する
	11	各自課題曲12(発声・言葉と旋律)	発声練習をし、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	発音についての指導内容をまとめて繰り返し練習する
	12	各自課題曲12(歌詞の意味と表現)	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰り返し読み、表現について考察する
	13	各自課題曲12(仕上げ)	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
	14	実技試験に向けたまとめ1 (歌詞や内容の理解・作品考察)	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
	15	実技試験に向けたまとめ2 (伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる)	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる

使用教科書	楽譜を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	器楽実技研究Ⅲ(ピアノ)	科目ナンバリング	PS2M1C11		
担当者	宮谷 理香他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABD
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。バロック音楽の様式を理解する。各自のレベルに合った曲目を選択し、完成度を高める			
授業の概要	器楽実技研究Ⅰ・Ⅱで修得した基礎的技術および、バッハのインベンション・シンフォニア・組曲などを基本として、平均律Ⅰ・Ⅱ巻よりプレリュードとフーガを用い更に深く読譜と技術を習得する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	semesterの学習計画を立てる バロック、古典派の曲を聴く	レッスンまでに1曲 完成させておく	指示された事柄について練習を進める
	2	バロックの楽曲を学ぶ① バロック音楽のジャンル曲を聴く	バロック音楽について調べる	バロックの時代背景を復習する
	3	バロックの楽曲を学ぶ② 選曲した楽曲の読譜	各声部の練習	各声部の独立
	4	バロックの楽曲を学ぶ③ 選曲した楽曲の分析	多声音楽について調べる	奏法の追求
	5	J.S.バッハの様式を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
	6	課題曲を学ぶ① 楽曲の読譜	課題曲の時代背景を調べる	読譜の徹底
	7	課題曲を学ぶ② 楽曲の分析	楽曲分析	指示された事柄について練習を進める
	8	課題曲を学ぶ③ 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習

	9	課題曲を分析する① 奏法・音色を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ
	10	課題曲を分析する② 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	指示された事柄について練習を進める
	11	課題曲を分析する③ 音色を中心に学修する	時代様式に即した音色作り	音色の追求
	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	曲の形式を調べる	形式に基づいた練習
	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和
	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
	15	総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める

使用教科書	各担当教員が、推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)

科目名	器楽実技研究Ⅲ(管弦打)	科目ナンバリング	PS2M1C11		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	基本的に演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めてきた1年次から更に難易度を上げ、応用力を付けていくことができる			
授業の概要	2年次は1年次で培った基礎力を基に、いろいろな場面で活かせるよう、応用力を養うことが必要となる。従って、より難しいソロ曲やエチュード(オーケストラスタディ含)に挑戦していく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の学習計画および内容の確認 他	事前に考えておく	学修内容の確認と復習
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習
	3	エチュードおよびソロ曲① (エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	4	エチュードおよびソロ曲② (エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	5	エチュードおよびソロ曲③ (エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	6	エチュードおよびソロ曲④ (エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	7	エチュードおよびソロ曲⑤ (エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	8	エチュードおよびソロ曲⑥ (エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習

	9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	10	エチュードおよびソロ曲⑧ (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	実技試験の総括と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	前期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	器楽実技研究Ⅳ(ピアノ)	科目ナンバリング	PS2M1C12		
担当者	宮谷 理香 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCD
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	ロマン派の内容と表現法をよく理解し、専門的な技能に加え豊かな感性を表現する演奏を目指す			
授業の概要	ロマン派の作品について広く学び、より高度な技術と音楽的表現を深く探求する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	Semesterの学習計画を立てる	レッスンまでに1曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める
	2	ロマン派音楽の理解① ロマン派の時代背景を学ぶ	ロマン派の音楽について調べる	ロマン派の時代背景を復習する
	3	ロマン派音楽の理解② 読譜と分析	楽曲分析	指示された事柄について練習を進める
	4	ロマン派音楽の理解③ 様式を中心に学修する	様式感を身に着ける	様式に即した奏法の追求
	5	課題曲の構成① 技術力向上と練習法	技術の探求	指示された事柄について練習を進める
	6	課題曲の構成② 奏法を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	奏法の工夫
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	ロマン派の奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	転調を意識して練習

	9	音楽的表現の追求① 奏法・音色を中心に	奏法の予習	奏法の掘り下げ
	10	音楽的表現の追求② 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	表現技術の徹底
	11	音楽的表現の追求③ 時代背景を中心に音色を作る	作曲家に即した音色作り	音色の追求
	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された内容まで到達するよう練習する
	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲全体の音の調和
	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
	15	次年度への展望・総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める

使用教科書	各担当教員が、推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度(複数の教員による採点)

科目名	器楽実技研究Ⅳ(管弦打)	科目ナンバリング	PS2M1C12		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABDE
備考	※管弦打楽コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	基本的に演奏家を目指すことを前提とし、常に安定した演奏ができるように基礎となる土台を築き、高めてきた1年次から更に難易度を上げ、応用力を付けていくことができる。後期は更に難易度を上げ、応用力を付けていくことを目指した前期の内容を積み重ねていくことにより、確実に安定した演奏に向かうことができる			
授業の概要	2年次は1年次で培った基礎力を基に、いろいろな場面で活かせるよう、応用力を養うことが必要となる。従って、より難しいソロ曲やエチュード(オーケストラスタディ含)に挑戦し、前期より深い内容とする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の反省と後期の展望について 他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習
	2	実技試験用ソロ曲の選定	候補曲を考えておく	学修内容の確認と復習
	3	エチュードおよびソロ曲① (エチュード課題後、ソロ曲の粗通し・音やtempoの確認)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	4	エチュードおよびソロ曲② (エチュード課題後、ソロ曲の流れについての確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	5	エチュードおよびソロ曲③ (エチュード課題後、ソロ曲のダイナミクスの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	6	エチュードおよびソロ曲④ (エチュード課題後、ソロ曲のアーティキュレーション等の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	7	エチュードおよびソロ曲⑤ (エチュード課題後、ソロ曲のテンポや拍子の変化の確認 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習
	8	エチュードおよびソロ曲⑥ (エチュード課題後、ソロ曲のアゴーギク等の研究 他)	研究および練習	学修内容の確認と復習

	9	エチュードおよびソロ曲⑦ (エチュード課題後、ソロ曲のその他音楽表現法 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	10	エチュードおよびソロ曲⑧ (エチュード課題後、ソロ曲のオリジナリティ研究 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	11	エチュードおよびソロ曲⑨ (エチュード課題後、ソロ曲の更なる表現への工夫 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	12	エチュードおよびソロ曲⑩ (エチュード課題後、ソロ曲を伴奏無しで通した上で、流れの確認 他)	研究および練習	学修内容の確認 と復習
	13	ソロ曲と伴奏合わせ① (粗通しをし、流れと音楽的表現の確認 他 ※無伴奏曲の場 合は、更に質向上のためのレッスン)	事前に伴奏合 わせしておく	反省を基に伴奏 合わせをする
	14	ソロ曲と伴奏合わせ② (ピアニストとのバランス、縦の確認 他 ※無伴奏曲の場合 は、更に質向上のためのレッスン)	前のレッスンで の課題を修正する	反省を基に伴奏 合わせをする
	15	ソロ曲と伴奏合わせ③ (実技試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法 他※ 無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン)	前回の内容に加 え、更に音楽性自 体も高める	実技試験の総括 と反省

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	後期実技試験	100%	演奏内容(表現力・ピッチ・テンポ感等)

科目名	創作応用演習Ⅲ(作曲)	科目ナンバリング	CR2M1N19		
担当者	中島 慧				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	作、編曲に必須となる基礎知識を固め、作品創作への足がかりを作る。			
授業の概要	個々のやりたいことや目標を設定し、それに必要な知識を幅広く学んでいく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	創作応用演習Ⅲの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅱ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞
	2	コード進行・和声実習の復習	課題実習	課題復習
	3	コード進行(ベースランニング、カウンターライン)・和声実習(Ⅱ7の基本)	課題実習	課題復習
	4	コード進行(ベースランニング、カウンターライン)・和声実習(Ⅱ7長調・短調)	課題実習	課題復習
	5	コード進行(ベースランニング、カウンターライン)・和声実習(Ⅱ7バス課題)	課題実習	課題復習
	6	コード進行(非和声音と準和声音)・和声実習(準固有和音について)	課題実習	課題復習
	7	コード進行(非和声音と準和声音)・和声実習(準固有和音の連結)	課題実習	課題復習
	8	コード進行(非和声音と準和声音)・和声実習(準固有和音を用いたバス課題)	課題実習	課題復習

	9	コード進行(各種のサブドミナント)・和声実習(V度の属7)	課題実習	課題復習
	10	コード進行(代理和音の総括)・和声実習(V度の属7)	課題実習	課題復習
	11	コード進行(補助和音・ずらし和音について)・和声実習(V度の属7)	課題実習	課題復習
	12	自作曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習	課題復習
	13	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習	課題復習
	14	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習	課題復習
	15	創作応用演習Ⅲのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習

使用教科書	和声Ⅱ理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題	20%	課題への積極性
	平常点	20%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作応用演習Ⅲ(ミュージックパフォーマンス)	科目ナンバリング	CR2M1N19		
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABC
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う			
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題・試験曲選曲	創作応用演習Ⅲ の課題曲選曲	課題①練習・基礎 練習
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景につ いて	課題①練習・基礎 練習
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎 練習
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎 練習
	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景につ いて	課題②練習・基礎 練習
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎 練習
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎 練習
8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題③背景につ いて	課題③練習・基礎 練習	

	9	課題③への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習
	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現(音響・サウンド)について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習ⅢのまとめⅣの準備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
平常点	10%	事前・事後学習への取り組み	
平常点	10%	演奏活動、行事への参加	

科目名	創作応用演習Ⅳ(作曲)	科目ナンバリング	CR2M1N20		
担当者	中島 慧				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	作、編曲に必須となる基礎知識を固め、作品創作への足がかりを作る。			
授業の概要	個々のやりたいことや目標を設定し、それに必要な知識を幅広く学んでいく。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	創作応用演習Ⅳの学修課題内容の説明 課題の目標と取り組み方について	自作品の創作、創作応用演習Ⅲ全般の復習	課題の練習、演習、鑑賞
	2	伴奏付け・即興演奏・和声実習 (Ⅴ度の属9の構成)	課題実習	課題復習
	3	伴奏付け・即興演奏・和声実習 (Ⅴ度の属9の連結)	課題実習	課題復習
	4	伴奏付け・即興演奏・和声実習 (ソプラノ課題)	課題実習	課題復習
	5	伴奏付け・即興演奏・和声実習 (ソプラノ課題・転調を含む)	課題実習	課題復習
	6	伴奏付け・即興演奏・和声実習 (Ⅳ7、ナポリ、ドリアの和音の構成)	課題実習	課題復習
	7	ファンファーレについて(既成曲の分析) スコアとパート譜、移調楽器について	課題実習	課題復習
	8	ファンファーレ制作	課題実習	課題復習

	9	伴奏付け・即興演奏・和声実習 (IV7、ナポリ、ドリアの和音の連結)	課題実習	課題復習
	10	伴奏付け・即興演奏・和声実習 (IV7、ナポリ、ドリアの和音を含むバス課題)	課題実習	課題復習
	11	様々な編成 (合唱、室内楽、吹奏楽、管弦楽)	課題実習	課題復習
	12	自作曲のレッスン、記譜について① 構成とフレーズについて	課題実習	課題復習
	13	自作曲のレッスン、記譜について② ダイナミクスとアーティキュレーションについて	課題実習	課題復習
	14	自作曲のレッスン、記譜について③ 楽譜の仕上げと演奏によるまとめ	課題実習	課題復習
	15	創作応用演習Ⅳのまとめ	提出作品の浄書	実技試験・筆記試験のための課題演習

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	筆記試験、実技試験、作品提出
	課題	20%	課題への積極性
	平常点	20%	積極的な作品発表等の取り組み

科目名	創作応用演習Ⅳ(ミュージックパフォーマンス)	科目ナンバリング	CR2M1N20		
担当者	西林 博子 他				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABC
備考	※ミュージックパフォーマンスコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	I 個々の実力に応じ、専攻実技の基礎技能を伸ばし、音楽表現力を身につける II 現代のニーズにあった演奏感覚を身に付ける III 音楽を通して、人間性豊かな情操を養う			
授業の概要	個人の得意とする音楽表現を学び、専門性を高めるため、実技演習として、専攻実技の基本的な奏法を楽曲を通して学び、個々のレパートリーを広げていく			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 後期課題・試験曲選曲	創作応用演習Ⅳ の課題曲選曲	課題①練習・基礎 練習
	2	課題①への取り組み① 分析(背景)と演奏表現について	課題①背景につ いて	課題①練習・基礎 練習
	3	課題①への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題①アナリーゼ	課題①練習・基礎 練習
	4	課題①への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現表現について 課題①のまとめ	課題①のまとめ	課題②練習・基礎 練習
	5	課題②への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題②背景につ いて	課題②練習・基礎 練習
	6	課題②への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題②アナリーゼ	課題②練習・基礎 練習
	7	課題②への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現について 課題②のまとめ	課題②のまとめ	課題③練習・基礎 練習
	8	課題③への取り組み① 分析(背景・リズム)と演奏表現について	課題③背景につ いて	課題③練習・基礎 練習

	9	課題③への取り組み② 分析(アナリーゼ)と演奏表現について	課題③アナリーゼ	課題③練習・基礎練習
	10	課題③への取り組み③ フレーズ、ダイナミクスと表現(音響・サウンド)について 課題③のまとめ	課題③のまとめ	試験曲練習・基礎練習
	11	試験曲への取り組み① 楽曲アナリーゼと作曲家等について	楽曲アナリーゼと作曲家等について	試験曲練習・基礎練習
	12	試験曲への取り組み② 楽曲アナリーゼ(構成)について	楽曲アナリーゼ(構成)について	試験曲練習・基礎練習
	13	試験曲への取り組み③ 表情(アーティキュレーション、ダイナミクス)について	アーティキュレーション、ダイナミクスについて	試験曲練習・基礎練習
	14	試験曲への取り組み④ 表現(音響・サウンド)について	表現(音響・サウンド)について	試験曲練習・基礎練習
	15	試験曲への取り組み⑤ 演奏の仕上げ	試験曲練習・提出楽譜準備	創作応用演習Ⅳのまとめ Ⅴの準備

使用教科書	個々の専攻実技により、適宜選択する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	専門実技の習熟度 自己表現力
	平常点	10%	事前・事後学習への取り組み
	平常点	10%	演奏活動、行事への参加

科目名	サウンドデザインⅢ			科目ナンバリ	SD2M1N27
担当者	向野 友規				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	2年次
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※サウンドデザインコース必修				
授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・より専門的なDTMの知識を修得、自身の楽曲制作に活かすことができるようになる。 ・積極的な音作りができるエフェクトを扱えるようになる。 ・サンプリングや逆再生など、オーディオ素材をより深く扱えるようになる。 				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・エフェクト関係を主に学ぶ。 				
授業計画	回	学習内容		事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション		特になし	課題実習
	2	イコライザーについて①		前回の復習	課題実習
	3	イコライザーについて②		前回までの復習	課題実習
	4	イコライザーについて③		前回までの復習	課題実習
	5	リバーブ・ディレイについて①		前回までの復習	課題実習
	6	リバーブ・ディレイについて②		前回までの復習	課題実習
	7	さまざまなエフェクトを使用しトラック制作①		前回までの復習	課題実習

	8	さまざまなエフェクトを使用しトラック制作②	前回までの復習	課題実習
	9	コンプレッサーについて	前回までの復習	課題実習
	10	MIDIエフェクトを用いたトラック制作	前回までの復習	課題実習
	11	FX系のサンプルを使用し、Riser・Fill・Build Up等のトラック制作	前回までの復習	課題実習
	12	サンプリング (Sampler & Quick Sampler) や逆再生等、オーディオに関するテクニックを用いてトラック制作	前回までの復習	課題実習
	13	音響 理論と実習	前回までの復習	課題実習
	14	制作・実習	前回までの復習	課題実習
	15	制作・実習	前回までの復習	前期試験課題実習

使用教科書	

参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	平常点	10%	出席数や受講態度等
	学外活動	10%	演奏・配信活動等への取り組み

科目名	サウンドデザインⅣ			科目ナンバー	SD2M1N28
担当者	向野 友規				
担当形態	複数			単位数	2単位
対象学科	音楽学科			開設学年	2年次
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※サウンドデザインコース必修				
授業のテーマ及び到達目標	・作詞・作曲、ボーカル編集ができるようになる。				
授業の概要	・作詞作曲、自身のボーカルのレコーディング。 ・他人へのボーカルディレクションを学ぶ。 ・ボーカルミックスやエディットを学ぶ。				
授業計画	回	学習内容		事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション		特になし	課題実習
	2	レコーディング&ディレクション①		前回の復習	課題実習
	3	レコーディング&ディレクション②		前回までの復習	課題実習
	4	Flex Pitch・Melodyneを使用したボーカルエディット① ピッチ・タイミング		前回までの復習	課題実習
	5	Flex Pitch・Melodyneを使用したボーカルエディット② ハモリ・コーラス		前回までの復習	課題実習
	6	ボリュームオートメーションやエフェクトを使用したボーカルトリートメント①		前回までの復習	課題実習
	7	ボリュームオートメーションやエフェクトを使用したボーカルトリートメント②		前回までの復習	課題実習

	8	ボーカルミックス	前回までの復習	課題実習
	9	ボーカル曲～作詞	前回までの復習	課題実習
	10	ボーカル曲～作曲①	前回までの復習	課題実習
	11	レコーディング & ディレクション①	前回までの復習	課題実習
	12	レコーディング & ディレクション②	前回までの復習	課題実習
	13	音響 理論と実習	前回までの復習	課題実習
	14	ボリュームオートメーションやエフェクトを使用したボーカルトリートメント	前回までの復習	課題実習
	15	ボーカルミックス	前回までの復習	前期試験課題実習

使用教科書	
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	80%	授業内容の習得、楽曲の完成度
	平常点	10%	出席数や受講態度等
	学外活動	10%	演奏・配信活動等への取り組み

科目名	音楽教育演習Ⅲ	科目ナンバリング	ME2M1N35		
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDF
備考	※音楽教育コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	<p>創作指導についての基礎的な知識や技能を修得するとともに、音楽の諸要素の働きについての理解を深める。</p> <p>創作の教材開発を通して、創作指導についての指導技術のみならず、指導者としての発想力、創造性を養う。</p>			
授業の概要	<p>創作指導の意義を理解するとともに、音楽制作ソフトを活用しながら、「旋律」と「リズム」を素材に教材を工夫する。</p> <p>多様な発想をもとにした創作の指導について構想し、発表する。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	創作指導の意義と実際 教科書教材を用いた創作	シラバスを熟読する	創作指導の意義をまとめる
	2	創作指導の内容と教育的価値 創作の基本となるリズム	学習指導要領の 創作の目標と指導 内容を読んでおく	「創作表現の教育的価値」をレポートにまとめる
	3	わらべうたから創作活動 リズムと旋律	日本の音階を予習	つくった旋律を記録しておく
	4	日本の音階を用いた旋律創作 福連木の子守唄から創作	日本の音階を予習	つくった旋律を記録しておく
	5	和音とその進行を用いた旋律創作	配布資料(教材)を分析しておく	つくった旋律を記録し、伴奏をつける
	6	パソコンを用いた創作活動	先行事例を見ておく	他の実践事例を調べる
	7	パソコンを用いた創作活動 授業の実際	どのような授業実践ができるか考えておく	つくった音楽を演奏する
8	和楽器を用いた創作活動 箏「平調子」でテーマを決めて創作	箏で「さくらさくら」が演奏できるようにしておく	つくった音楽を記録し演奏する	

	9	創作の授業づくりに挑戦 ・演習の中から(教科書事例も含む)選び、授業構想	同じ創作の内容にならないように、分担任しておく	指導計画を完成する
	10	創作の授業づくりに挑戦 ・指導計画の発表と本時の展開構想	指導計画をチームで提出する	本時の展開をまとめておく
	11	創作の授業づくりに挑戦 ・本時の展開を発表	本時の展開をチームで提出する	本時の展開を修正する
	12	創作の授業づくりに挑戦 ・学習評価	評価規準について予習しておく	指導計画及び本時の評価規準を修正する
	13	創作の授業づくりに挑戦 模擬授業1	模擬授業の準備をしておく	2名の模擬授業を見て学んだことをまとめておく
	14	創作の授業づくりに挑戦 模擬授業2	模擬授業の準備をしておく	2名の模擬授業を見て学んだことをまとめておく
	15	創作の授業づくりに挑戦 模擬授業3	模擬授業の準備をしておく	2名の模擬授業を見て学んだことをまとめておく

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	30%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
指導案・模擬授業	50%	内容の深さ、教師としての資質	
毎時間の振り返り	20%	内容についての理解、自分なりの考え	

科目名	音楽教育演習Ⅳ	科目ナンバリング	ME2M1N36		
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				BDF
備考	※音楽教育コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	鑑賞指導についての基礎的な知識を修得するとともに日本の伝統音楽、世界の音楽についての理解を深める。 教材研究や模擬授業を通して、鑑賞と表現の一体化や言語活動を重視した授業づくりについて理解を深める。			
授業の概要	鑑賞指導についての意義を理解するとともに、日本の伝統音楽、世界の音楽を教材とした鑑賞の指導計画を立てる。 模擬授業を通して、鑑賞の授業づくりについて自分なりの考えをもつとともに、生徒に分かりやすい鑑賞資料を作る。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	鑑賞指導の意義と内容	鑑賞領域の目標と内容を読み、教科書に目を通しておく	鑑賞指導の意義をまとめる
	2	日本音楽の特徴と教育的意義 和楽器について(楽器の歴史、構造、奏法、主な楽曲など)	日本音楽の特徴を調べておく	日本音楽の特徴と教育的意義をレポートにまとめる
	3	箏曲「六段の調べ」の教材研究 教材分析と指導構想	楽曲の教材分析	指導構想をまとめる
	4	雅楽「越天楽」の教材研究 教材分析と指導構想	楽曲の教材分析	指導構想をまとめる
	5	世界の音楽について 鑑賞教材と大切にしたいこと	楽曲の教材分析	指導構想をまとめる
	6	情景を思い浮かべて聴こう「春－第1楽章－」 教材分析と指導構想	楽曲の教材分析	指導構想をまとめる
	7	曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わおう「交響曲第5番ハ短調」 教材分析と指導構想	楽曲の教材分析	指導構想をまとめる
8	曲が生まれた背景を理解して「ブルタバ」 教材分析と指導構想	楽曲の教材分析	選択した題材の指導計画を立てておく	

	9	選択した教材曲を使った鑑賞の指導計画発表	指導計画をチーム ズで提出しておく	指導計画を修正し 展開案を立ててお く
	10	選択した教材曲を使った展開案発表	展開案をチームズ で提出しておく	展開案を修正す る
	11	鑑賞の授業における実践的指導力 模擬授業①と意見交換	模擬授業の準備 をしておく	本時の展開を修 正し、本時の振り 返りを記録する
	12	鑑賞の授業における実践的指導力 模擬授業②と意見交換	模擬授業の準備 をしておく	本時の展開を修 正し、本時の振り 返りを記録する
	13	鑑賞の授業における実践的指導力 模擬授業③と意見交換	模擬授業の準備 をしておく	本時の展開を修 正し、本時の振り 返りを記録する
	14	鑑賞の授業における実践的指導力 模擬授業④と意見交換	模擬授業の準備 をしておく	本時の展開を修 正し、本時の振り 返りを記録する
	15	鑑賞の授業における実践的指導力 模擬授業⑤と意見交換	模擬授業の準備 をしておく	本時の展開を修 正し、本時の振り 返りを記録する

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	学生制作の資料

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	30%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
模擬授業と指導案	50%	内容の深さ、授業での効果	
毎時間の振り返り	20%	内容についての理解、自分なりの考え	

科目名	音楽療法演習Ⅲ	科目ナンバリング	MT2M1T43		
担当者	七原 真紀				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			必修	ABCD
備考	※音楽療法コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法士が音楽を媒体として精神科領域で治療に関わる意味を多角的・理論的に検討することを目的とし、それを言語化し他者に伝えることができる 技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法を身につけることを目的とし、現場ですぐに使える楽曲を10曲以上暗譜で弾き歌いできる			
授業の概要	精神科領域に関する各論および技法を扱う。各論では、精神科領域対象者野の心身の疾病や障害を把握する また技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法(主に歌唱)を学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題曲の発表	シラバスの熟読	課題曲の練習
	2	・精神科リハビリテーションについて ・臨床場面における弾き歌い(童謡・唱歌)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	3	・精神科作業療法について(成り立ち) ・臨床場面における弾き歌い(学校教育音楽)	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	4	・精神福祉について ・臨床場面における弾き歌い(昭和40年以前の歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	5	・精神科作業療法としての音楽療法 ・弾き歌い(昭和40年代歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	6	・精神科作業療法としての音楽療法の歴史 ・臨床場面における弾き歌い(昭和40～50年代歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	7	・治療構造について ・臨床場面における弾き歌い(昭和50年代歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	8	・精神科での音楽療法の効用 ・臨床場面における弾き歌い(昭和50～60年代歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習

	9	・精神障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(昭和60年代歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	10	・プログラムについて ・臨床場面における弾き歌い(平成時代歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	11	・評価と記録 ・臨床場面における弾き歌い(平成時代歌謡曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	12	・神経学的音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(試験曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	13	・精神科領域の事例研究 ・精神科領域の楽曲(試験曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	事例についてまとめ。課題曲の練習
	14	音楽療法における声の使い方(時期未定) * 青拓美講師による特別講座	レジュメを熟読し、用語を調べる	レッスンで学んだことをまとめる
	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	ひとと音・音楽 療法として音楽を使う(青海社),
	ケースに学ぶ音楽療法Ⅱ(岩崎学術出版)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		平常点(態度・行動観察)	10%
	レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	音楽療法演習Ⅳ	科目ナンバリング	MT2M1T44		
担当者	七原 真紀				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			必修	ABCD
備考	※音楽療法コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	音楽療法士が音楽を媒体として精神科領域で治療に関わる意味を多角的・理論的に検討することを目的とし、それを言語化し他者に伝えることができる 技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法を身につけることを目的とした弾き歌い曲を10曲以上暗譜で演奏できる			
授業の概要	演習Ⅲに引き続き、各論では、精神科領域の基礎知識について学び、加えて、精神科領域対象者野の心身の疾病や障害を把握する。技法においては、精神科領域における対象者へ有効に働きかけるための臨床音楽技法(主に伴奏法)を学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 課題曲の発表	シラバスの熟読	課題曲の練習
	2	・精神科音楽療法における対象と音楽 ・臨床場面における伴奏法について	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	3	・統合失調症について ・臨床における歌唱について	プリントの熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	4	・統合失調症と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(昭和時代の歌謡曲①)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	5	・気分障害について ・臨床場面における弾き歌い(昭和時代の歌謡曲②)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	6	・気分障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(平成時代の歌謡曲①)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	7	・不安障害について ・臨床場面における弾き歌い(平成時代の歌謡曲②)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	8	・不安障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(ジャズ)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習

	9	・人格障害について ・臨床場面における弾き歌い(シャンソン)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	10	・人格障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(英語の楽曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	11	・高齢期の精神障害と音楽療法 ・臨床場面における弾き歌い(試験曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	12	・児童期の精神障害について ・臨床場面における弾き歌い(試験曲)	教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	課題のまとめ 課題曲の練習
	13	音楽療法の実際[教科書の熟読、用語の理解 課題曲の練習	事例についてまとめ。課題曲の練習
	14	音楽療法の実際(現場見学)	セッションの準備	セッションで学んだことをまとめる
	15	・まとめ(弾き歌い、口頭試問) ・夏休みの課題提示	授業で学修したことを振り返る	課題曲の練習

使用教科書	精神障害と作業療法(三輪書店)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		平常点(態度・行動観察)	10%
	レジュメ作成と発表	30%	課題への取り組み、内容の充実
	期末テスト	60%	弾き歌い、及び口頭試問の点数

科目名	ピアノⅢ	科目ナンバリング	NP2M4C03		
担当者	平良 大司朗 他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	選択必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース以外必修				

授業のテーマ及び到達目標	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	基礎的な技術の修得を目指すとともに、古典派・ロマン派など、時代に即した演奏技術を身につける。一人一人の技能、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション (レッスンについての説明・楽曲選曲)	シラバスを読み、 授業内容を確認する	指示された事柄について練習を進める
	2	スケール・練習曲・古典派の作品等を通してアーティキュレーションについて学ぶ	課題曲を読譜する	楽譜の指示を見直す
	3	スケール・練習曲・古典派の作品等を通して演奏と呼吸、抑揚について学ぶ	呼吸と演奏法について考える	フレーズの構造をまとめる
	4	スケール・練習曲・古典派・ロマン派等の作品等を通して演奏と呼吸、抑揚について学ぶ	課題曲の指使いを見直す	時代による表現の特徴をまとめる
	5	スケール・練習曲・古典派の作品等を通して楽曲の形式、和声構造について学ぶ	課題曲の形式を調べる	曲のハーモニーをよく味わい、構造を考える
	6	試験曲の決定 (前回までの学びを振り返る)	試験候補曲の準備をする	課題曲の技術・表現に必要な要素を考える
	7	試験曲の分析・練習方法① (時代背景を中心に)	曲の背景を調べる	作曲家の特徴を考える
	8	試験曲の分析・練習方法② (様式を中心に)	曲の様式について調べる	曲の時代様式を復習する

	9	試験曲の分析・練習方法③ (強弱法を中心に)	楽譜の強弱を丁寧に 見直す	指示された事柄に ついて練習を進 める
	10	試験曲の構成・表現の修得① (運指法を中心に)	楽譜の運指を見 直す	指示された指使い を復習する
	11	試験曲の構成・表現の修得② (和声を中心に)	曲を要約し、和音 で練習してみる	ハーモニーのつな がりを確認する
	12	試験曲の構成・表現の修得③ (形式を中心に)	曲の形式を調べる	曲のアナリゼを まとめる
	13	試験曲の構成・表現の修得④ (奏法を中心に)	暗譜で演奏できる よう準備する	身体の使い方等 を見直す
	14	試験曲の構成・表現の修得⑤ (表現法を中心に)	確実な暗譜を練習 する	必要な表現を確 認する
	15	試験曲の構成・表現の完成 後期の課題決め	後期の候補曲を 準備する	学びの総まとめを する

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	ピアノⅣ	科目ナンバリング	NP2M4C04		
担当者	平良 大司朗 他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	選択必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース以外必修				

授業のテーマ及び到達目標	各自に課せられた楽曲を、実技試験までに完成させる。毎時間の課題を十分に予習・復習してレッスンに臨むことができる			
授業の概要	基礎的な技術の修得を目指すとともに、古典派・ロマン派など、時代に即した演奏技術を身につける。一人一人の技能、到達度に応じた指導を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション スケール・練習曲等を通してカデンツを確認する	課題曲を準備する	指示された事柄について練習を進める
	2	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通してより合理的な運指を考察する(1)	曲の運指を見直す	指示された指使いを復習する
	3	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通してより合理的な運指を考察する(2)	スケール課題の調を決定する	指示された事柄について練習を進める
	4	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通してアナリーゼをどう表現に結びつけるか考察する	曲の分析を試みる	分析を理解し、表現につなげる
	5	スケール・練習曲・ロマン派等の作品を通して時代様式をどう表現に結びつけるか考察する	曲の時代背景を調べる	時代様式をまとめる
	6	試験曲の決定 (前回までの学びを振り返る)	試験候補曲の準備をする	指示された事柄について練習を進める
	7	試験曲の分析・練習方法 (音の方向性を考察する)	曲の旋律のみ取り出して音楽的に練習する	旋律の魅力的な奏法を考察する
	8	試験曲の分析・練習方法 (ペダリングについて)	指示されたペダリングを試みる	ペダルを踏むタイミングを正確に認識する

	9	試験曲の分析・練習方法 (形式・和声を中心に)	前回のペダリング を和声表現に活 かす	曲の形式につい てまとめる
	10	試験曲の構成・表現の修得 (運指を中心に)	楽譜に指示された 運指で練習する	指示のあった運 指を確認する
	11	試験曲の構成・表現の修得 (強弱法を中心に)	楽譜に指示された 強弱を守り練習す る	強弱の不確かな 部分がないか チェックする
	12	試験曲の構成・表現の修得 (奏法を中心に)	身体の使い方を 見直す	適確な表現法を 試みる
	13	試験曲の構成・表現の修得 (音色を中心に)	曲の内容をまとめ る	技術および表現 上の課題解決に 取り組む
	14	暗譜の確認	暗譜で安定した演 奏が出来るよう練 習する	暗譜の不確かな 場所がなかったか 確認しておく
	15	試験曲の構成・表現の完成	前回までに学んだ 内容を復習する	学びの総まとめを する

使用教科書	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	課題曲の完成度

科目名	声楽Ⅲ	科目ナンバリング	NV2M4C11		
担当者	赤池 優他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修			BDE
備考	※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目				

授業のテーマ及び到達目標	呼吸法や発声など声楽の基礎技術についての理解を深める。また、イタリア語の発音の仕方に慣れる。身体を解放して伸びやかな演奏ができる。			
授業の概要	声楽Ⅰ・Ⅱで習得したものを基礎にしてさまざまな歌曲を学ぶ。作品に対しては、前の内容を理解し、その芸術性に触れていく。 *試験曲ではイタリア古典歌曲集、イタリアロマン派歌曲集、日本歌曲より選曲する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	イタリア歌曲を鑑賞する
	2	各自課題曲7(身体と声の関係)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	3	各自課題曲7(声の響き)	身体を解放することを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	4	各自課題曲7(息の流れと身体の支え)	声の響きを意識して母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	5	各自課題曲7(発声と発音)	息の流れを意識してイタリア語で歌う練習をする	レッスン内容をまとめる
	6	各自課題曲8(発音とリズム)	課題曲を母音唱で練習する	レッスン内容をまとめる
	7	各自課題曲8(母音の響き)	正しい発音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	8	各自課題曲8(言葉の響き)	響きのある母音で歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる

	9	各自課題曲8(歌詞の意味と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	10	各自課題曲9(母音の響きと呼吸法)	スムーズな息の流れで歌唱できるように練習する	レッスン内容をまとめる
	11	各自課題曲9 (イタリア語の発音と発声)	どの言葉も豊かな響きで歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	12	各自課題曲9(言葉と旋律の関係)	歌詞の意味を理解して表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる
	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる

使用教科書	楽譜は授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	声楽Ⅳ	科目ナンバリング	NV2M4C12		
担当者	赤池 優 他				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修			BDE
備考	※サウンドデザイン、ミュージックパフォーマンスコースは選択科目				

授業のテーマ及び到達目標	呼吸法や発声など声楽の基礎技術をさらに深める。イタリア語・日本語に加えてドイツ語の発音の仕方を習得し、歌詞の内容を表現した演奏ができる。教職履修学生は課題曲を暗譜し、はっきりとした発音と正しい音程で表情豊かに歌唱できるようにする。			
授業の概要	声楽Ⅰ～Ⅲで習得したものを基礎にしてさまざまな歌曲を学ぶ。作品に対しては、詩の内容を理解し、その芸術性に触れていく。 *試験曲ではイタリア古典歌曲集、イタリアロマン派歌曲集、日本歌曲、ドイツ歌曲より選曲する。 ※教職課程履修学生は「夏の思い出」「花の街」「早春賦」を課題曲とし、暗譜歌唱する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する
	2	各自課題曲10(発音と呼吸法)	課題曲をイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる
	3	各自課題曲10(母音の響き)	母音の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	4	各自課題曲10(言葉と響き)	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
	5	各自課題曲10(旋律の表現)	フレーズのまとまりを感じて歌う練習をする	レッスン内容をまとめる
	6	各自課題曲11 (言葉の発音と母音の響き)	母音の響きに気をつけてイタリア語で練習する	レッスン内容をまとめる
	7	各自課題曲11(言葉と旋律)	イタリア語を旋律に乗せて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる
	8	各自課題曲11(旋律と呼吸)	フレーズと呼吸の関りを感じて歌えるように練習する	レッスン内容をまとめる

	9	各自課題曲11(言葉と表現)	歌詞の意味を理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	10	各自課題曲12(歌詞と発語)	発音に気をつけて課題曲を練習する	レッスン内容をまとめる
	11	各自課題曲12 (テンポ・強弱などの表現)	楽譜に書かれている表示記号を表現して歌う	レッスン内容をまとめる
	12	各自課題曲12(伴奏と旋律)	伴奏と歌との関りを理解して歌う	レッスン内容をまとめる
	13	実技試験に向けたまとめ1 (呼吸・発声)	暗譜して歌唱できるように練習する	呼吸・発声を中心にレッスン内容を復習する
	14	実技試験に向けたまとめ2 (発音・母音の響き)	発声の課題に留意して練習する	発音や母音の響きを中心にレッスン内容を復習する
	15	実技試験に向けたまとめ3 (表現法)	伴奏者と共に練習する	どのように表現すればよいかまとめる

使用教科書	イタリア歌曲集 I (全音楽譜出版社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科目名	演奏実技Ⅲ	科目ナンバリング	NC2M3T17		
担当者	実技系教員(主に管弦打)				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス(年間計画等)	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	エチュードの選定(内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードB-1	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードB-2	事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードB-3	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードB-4	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードB-5	事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードB-6	事前練習	学修内容の復習

	9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
	10	ソロ曲B-1	事前練習	学修内容の復習
	11	ソロ曲B-2	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲B-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲B-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲B-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	前期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか	

科目名	演奏実技Ⅳ	科目ナンバリング	NC2M3T18		
担当者	実技系教員(主に管弦打)				
担当形態	クラス分け	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※				ABDE
備考	※原則として声楽・ピアノ・管弦打は選択不可				

授業のテーマ及び到達目標	専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることができる			
授業の概要	原則として、以前経験したことのある楽器について、専門(例えば管弦打楽器)に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。時間の制約(約30分)以外は専門と同等レベルのレッスンが行われる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の反省と確認	事前に練習をしておく	次のレッスンへの準備
	2	エチュードの選定 (内容の説明 他)	事前に準備しておく	学修内容の復習
	3	エチュードC-1	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードC-2	事前練習	学修内容の復習
	5	エチュードC-3	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードC-4	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードC-5	事前練習	学修内容の復習
	8	エチュードC-6	事前練習	学修内容の復習

	9	ソロ曲の選定	事前練習	学修内容の復習
	10	ソロ曲C-1	事前練習	学修内容の復習
	11	ソロ曲C-2	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	12	ソロ曲C-3 (粗通し)	事前練習	学修内容の復習
	13	ソロ曲C-4 (テンポとアーティキュレーションの確認)	事前練習	学修内容の復習
	14	ソロ曲C-5 (音楽的表現を伴った伴奏合わせ)	事前練習	学修内容の復習
	15	総まとめ (人前での披露演奏)	事前練習	後期の反省 他

使用教科書	各担当者が適宜選定し、指定する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢
演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かしているか	

科目名	伴奏法 I A	科目ナンバリング	MC2M4C41A		
担当者	宮谷 理香				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース必修				

授業のテーマ及び到達目標	美しい音色とレガート奏法を身につける。伴奏パートに想像力を持たせ、より多彩な響きを得るための技術を習得する			
授業の概要	アンサンブルとしてのピアノ奏法を学ぶ。呼吸、フレージング、音色を研究する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容のオリエンテーション (一年間の授業計画と伴奏への認識について)	シラバスを読み、授業の内容を確認する	指定された楽譜を準備しておく
	2	中田喜直、山田耕柝の作品を通して、歌詞の内容とピアノパートとの関連性を探る	教材曲について調べ、練習する	各教材曲の課題をまとめておく
	3	楽譜を正確に読み、曲にふさわしいタッチ、フレーズ感を探る	指示された内容まで到達するよう練習する	技術および表現法の改善に取り組む
	4	楽曲の素朴な味わいを大切にしながらドラマを作る(品のある音で)	美しい音色、構成感について考えておく	指導された事柄を復習しておく
	5	成田為三の作品を通して、歌のパートと伴奏パートの意味するものを考察する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容と伴奏の関連性を考えておく
	6	細かい音がうるさく聴こえないよう、バランスよく表現する	アルペジオ奏法を練習する	指導された事柄を復習しておく
	7	中田章の作品を歌のパート、メロディーを感じて演奏する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容と伴奏の関連性を考えておく
	8	左手のアルペジオ奏法をマスターする	指示された内容まで到達するよう練習する	技術および表現法の改善に取り組む

	9	滝廉太郎の作品を通して、作品の性格を弾き分ける技術を探る	教材曲について調べ、練習する	各教材曲の課題をまとめておく
	10	日本的抒情を表現するテクニックを学ぶ	美しい音色、構成感について考えておく	重音演奏の復習および練習
	11	重音を含んだ間奏を美しく弾く	指示された内容まで到達するよう練習する	強弱法を振り返り復習しておく
	12	有節歌曲の弾き分け方を学ぶ (日本語のニュアンスに応じて)	教材曲について調べ、練習する	技術および表現法の改善に取り組む
	13	團伊玖磨の作品を通して言葉とメロディー、伴奏に求められるものを考察する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容と伴奏の関連性を考えておく
	14	美しい音色、暖かい響きを追求する	指示された内容まで到達するよう練習する	前回まで学んだ教材曲を全曲復習する
	15	まとめ	曲の内容をまとめる	授業で学んだことをまとめる

使用教科書	中学生の音楽
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	実技発表への取り組み、成果
平常点(態度、行動観察)	50%	授業中の積極的な参加、練習状況	

科目名	伴奏法 I B	科目ナンバリング	MC2M4C41B		
担当者	平良 大司朗				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース以外の学生対象				

授業のテーマ及び到達目標	課題に取り組むことを通し、ピアノ伴奏の基礎技術を向上させ、教職現場に必要な音楽性の基礎を身につける			
授業の概要	一人一人の技能・到達度に応じたピアノ伴奏の指導を行う。主に中学校の教職教材を課題とし、まず伴奏することの楽しさや基礎を学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容のオリエンテーション (一年間の授業計画と伴奏への認識について)	シラバスを読み、授業の内容を確認する	指定された楽譜を準備しておく
	2	中田喜直の作品を題材にして、歌詞の情景と伴奏型の関連性を学ぶ	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく
	3	美しい音色を奏するための姿勢、打鍵法について	強弱法を活かし、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	4	山田耕筰の作品を題材にして、ピアノのハーモニーの中にある歌を感じる	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく
	5	ペダルを使い、音と音をなめらかにつなぐ奏法を学ぶ	重音のバランスに注意し、練習する	呼吸、ペダルのタイミングを確認しておく
	6	楽譜を正確に読み、曲にふさわしいタッチ・フレーズ感を探る	曲の内容と音色に留意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	7	成田為三の作品を題材にして、伴奏型の意図するものを想像する	教材曲について調べ、練習する	左手の運指を確認し、復習しておく
	8	分散和音を例にし、運指の重要性を学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	情景と音色の結びつきについてまとめる

	9	歌のパートとの音量のバランスについて考察する	歌のパートとのバランスに注意し練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	10	中田章の作品を題材にして、暖かい響き・美しい音色を追求する	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく
	11	詩の内容と音楽がどう結びついているか研究する	曲の内容と音色に留意し、練習する	情景と音色の結びつきについてまとめておく
	12	歌に寄り添った伴奏を目指す	曲の内容と音色に留意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	13	どんな技術が必要か、どんな感性を養うべきかを、もう一度よく考える	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	授業の復習および練習
	14	前期に学修した曲を、総合的に深く理解し、演奏できるようにする	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	15	まとめ	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	授業で学んだことをまとめる

使用教科書	中学生の音楽
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	実技発表への取り組み、成果
平常点(態度、行動観察)	50%	授業中の積極的な参加、練習状況	

科目名	伴奏法ⅡA	科目ナンバリング	MC2M4C42A		
担当者	宮谷 理香				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース学生対象(必修)				

授業のテーマ及び到達目標	主にドイツリートを題材に、アンサンブルピアニストとしての表現、テクニックを身につける。その中で学んだことを活かし、アンサンブルだけに留まらず、一人の演奏者、表現者としての能力をレベルアップしていく			
授業の概要	楽譜から、作曲家が表現したかったことを読み解いていく。アンサンブルピアニストとして必要な呼吸感、言葉と音楽の関連性、音色やドラマ作り等を指導する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容のオリエンテーション アンサンブルにおけるピアノの役割とは何か	シラバスを読み、授業の内容を確認する	指定された楽譜を準備しておく
	2	W.A.モーツァルトの作品を通して、音楽だけでなく言葉の意味、発音の大切さを感じ理解する	教材曲について調べ、練習する	装飾音の解釈をまとめておく
	3	詩とメロディーの関連性について考察する	歌パートを理解し練習する	曲の情景を表現することについて復習しておく
	4	共演者と共にレッスンし、音型によってどのような世界を作り出していくか研究する	音色・ハーモニー・リズムを丁寧に考察しておく	様式感と表現の関連性について復習しておく
	5	共演者と共にレッスンし、アンサンブルやバランス等を確認する	歌に寄り添った伴奏について考えておく	確認事項を整理し復習しておく
	6	F.シューベルトの作品を通して、言葉と音楽の関連性を考察する	教材曲について調べ、練習する	正確な読譜について復習しておく
	7	情景を描写する伴奏パートから、繊細な音の表現を研究する	伴奏パートのリズムについて理解しておく	リズムとハーモニーの関連を理解しておく
	8	共演者と共にレッスンし、テンポコントロールの重要性を認識し・息づくフレーズ感を創る	有節歌曲の表現上の工夫について考えておく	曲の構成について復習する

	9	共演者と共にレッスンし、アンサンブルやバランス等を確認する	表現についての考えをまとめておく	確認事項を整理し復習しておく
	10	R.シューマンの作品を通して、弾くことの難しさだけにとらわれず、詩の内容と音楽がどう結びついているか研究する	教材曲について調べ、練習する	詩の内容を復習する
	11	時代の経過とともに、音楽表現がどれだけ豊かになったか研究する	ロマン派の特徴についてまとめておく	曲の構成について復習する
	12	共演者と共にレッスンし、シューマン独特の歌心をどう表現しているか研究する	歌パートを理解し練習する	曲の心情を表現することについて復習しておく
	13	共演者と共にレッスンし、アンサンブルやバランス等を確認する	表現についての考えをまとめておく	確認事項を整理し復習しておく
	14	どんな技術が必要か、どんな感性を養うべきかを振り返って考察する	前回まで学んだ教材曲全曲を復習する	各様式を踏まえ練習しておく
	15	まとめ	前回まで学んだ教材曲全曲を復習する	授業で学んだことをまとめる

使用教科書	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	実技発表への取り組み、成果
平常点(態度、行動観察)	50%	授業中の積極的な参加、練習状況	

科目名	伴奏法ⅡB	科目ナンバリング	MC2M4C42B		
担当者	平良 大司朗				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※	必修		選択必修	DE
備考	※ピアノコース以外の学生対象				

授業のテーマ及び到達目標	課題に取り組むことを通し、ピアノの演奏技術および伴奏の表現技術を向上させ、「伴奏法Ⅰ」で修得したものよりもより高いレベルの曲を演奏することができる			
授業の概要	中学校の教職教材に加え、歌曲を課題とし、ピアノ伴奏の要点、役割、方法等を研究する。音楽を学ぶ上で欠かせない伴奏を通して、相手との呼吸を合わせる意識や、音色や音量のバランス感覚を育てる			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の学習の成果と反省をふまえ、課題を見直す	シラバスを読み、授業の概要を確認する	指定された楽譜を準備しておく
	2	滝廉太郎の作品の概要、および時代背景を探る	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく
	3	左手の多声部の奏法を中心に、美しいバランスを学ぶ	指使いに留意し練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	4	しみじみとした味わいを美しい音で表現する	歌詞の内容と音色の関連性に留意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	5	滝廉太郎の作品から、右手重音の奏法を中心に技術を追求する	教材曲について調べ、練習する	重音の技術についてまとめておく
	6	歌詞の情景と音色について考察する	バスパートのハーモニーをつかんで練習する	ポリフォニーの演奏法を復習しておく
	7	左手の音楽的な表現法、深い表現を目指す	歌のパートとのバランスに留意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	8	團伊玖磨の作品を題材とし、ピアノパートの情景との結びつきを探る	教材曲について調べ、練習する	歌詞の内容を理解しておく

	9	美しいメロディーを美しく演奏する、運指の重要性を認識する	2拍子のリズムを正しく練習する	運指に注意し、復習しておく
	10	ピアノのハーモニーの中に歌があることを感じる	フレーズを意識し、練習する	歌詞の情景を伝えるハーモニーを復習しておく
	11	歌曲伴奏の大切なポイントについて理解する・歌詞の意味を理解する	教材曲について調べ、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	12	歌のパート、メロディーを感じて演奏してみる	歌のパートとのバランスに留意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	13	歌曲伴奏に必要な表現法を学ぶとともに、歌に寄り添った伴奏について考察する	バランスに注意し、練習する	指導された事柄をまとめ、復習しておく
	14	どんな技術が必要か、どんな感性を養うべきかをもう一度考察する	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	各教材曲の課題をもう一度熟考し練習する
	15	まとめ	前回までに学んだすべての教材曲を復習する	授業で学んだことをまとめる

使用教科書	中学生の音楽
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	実技発表への取り組み、成果
平常点(態度、行動観察)	50%	授業中の積極的な参加、練習状況	

科目名	合唱Ⅲ	科目ナンバリング	MC2M1C03/KC2M1T13		
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる
	2	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習①呼気のコントロールと発声のメカニズムについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	合唱(コーラス・アンサンブル)のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習①移動ド唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習②移動ド唱法とソルミゼーションその2	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガヌム等を用いて完全4度または完全5度の響きを味わい音程感覚を養う	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、2～3声の楽曲、様々なコーラス・アンサンブルを研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Aの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Aの実習、発語(ディクシオン)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Bの実習、アーティキュレーションについて研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Bの実習、発語(ディクシオン)について研究する	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察	
平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み	

科目名	合唱Ⅳ	科目ナンバリング	MC2M1C04/KC2M1T14		
担当者	赤池 優・黒島舞季子				
担当形態	複数	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる			
授業の概要	コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音程感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	シラバスを確認	計画を立てる
	2	楽曲演奏と実習① 組曲第1曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	3	楽曲演奏と実習② 組曲第2曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	4	楽曲演奏と実習③ 組曲第3曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	5	楽曲演奏と実習④ 組曲第4曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第5曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第6曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
	8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第7曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

	9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第8曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第9曲の演奏	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その1	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その2	演習楽曲の研究と 練習	課題に基づき復 習・反復練習
	13	リハーサル	既習事項のまとめ と練習	課題に基づき復 習・反復練習
	14	演奏会	既習事項のまとめ と練習	課題に基づき復 習・反復練習
	15	総括と反省	既習事項のまとめ と練習	課題に基づき復 習・反復練習

使用教科書	必要に応じて配付、または個人購入して使用する,詳細は授業時に指示する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かしている
課題 / レポート	30%	合唱曲、アンサンブルについての考察	
平常点(態度・行動観察)	20%	授業態度、積極的な取り組み	

科目名	合奏Ⅲ	科目ナンバリング	MC2M4C11		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修／音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単				

授業のテーマ及び到達目標	指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も付けていくことができるようになる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション(授業計画等)	シラバスを確認	次の授業に備える
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	合奏における注意点 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ (毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	定期演奏会プログラム① (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	定期演奏会プログラム② (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	定期演奏会プログラム③ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	定期演奏会プログラム④ (毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	総リハーサル (本番を想定し、緊張感をもって臨む)	プログラム全曲に ついて、注意すべ き点をチェックする	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	定期演奏会 (これまでの内容を演奏会に活かす)	本番に備えての準 備他	本番を終えての 反省点をまとめる
	15	総括と反省会	反省点をまとめて 準備しておく	前期で学んだこと の確認と後期へ の展望を考える

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす	

科目名	合奏Ⅳ	科目ナンバリング	MC2M4C12		
担当者	馬込 勇・柏尾 剛徳 他				
担当形態	クラス分け	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ABCDEF
備考	※管弦打楽コース必修／音楽療法士1種においては実技に関する科目群「22単位以上」、2種においては「14単				

授業のテーマ及び到達目標	前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる			
授業の概要	アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。※ここでは主科生中心の「吹奏楽」の内容を主とするが、その他に「打楽器」、「ヴァイオリン」、「箏」のクラスがあり、それぞれの担当者が内容についての指示を出すものとする			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	前期の復習 (前期に学んだことの復習および確認)	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える
	2	基本的奏法の修得とその応用① (教材となる曲の発表とその音出し)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	基本的奏法の修得とその応用② (教材曲の演奏と分析)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	基本的奏法の修得とその応用③ (リズム・音程のトレーニング)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	5	基本的奏法の修得とその応用④ (リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤ (独奏では経験できない音楽体験をする)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥ (アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦ (合奏というジャンルを幅広く理解する)	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習

	9	基本的奏法の修得とその応用⑧ (各楽器・パートそれぞれの役割について)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	10	基本的奏法の修得とその応用⑨ (様々な楽器の特色と奏法)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	11	基本的奏法の修得とその応用⑩ (音楽的表現における音色の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	12	基本的奏法の修得とその応用⑪ (更なる表現方法の研究)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	13	まとめ① (教材楽曲を通しての確認と応用①)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	14	まとめ② (教材楽曲を通しての確認と応用②)	教材となっている 楽曲の研究と練習	注意や指摘され たところの反復練 習
	15	まとめ③ (教材楽曲の発表会[ミニコンサート])	発表会への準備 等	授業の総括と反 省

使用教科書	各担当者により指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす	

科目名	アートマネージメントⅢ	科目ナンバリング	MC2M4N25		
担当者	小西 たくま				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	本校で上演されている「音 創造」「華麗なる音楽の祭典」を主題モデルとして、検証し、コンサートを自ら企画立案し、上演を可能にすること。また、それらについての検証が行えるようにする。			
授業の概要	コンサートを含むイベントの企画立案、実施を可能にするノウハウを習得する。公演の上演に至る過程で必要な課題や役割を学ぶ。アートマネージメントの実施現場の視察、見学。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ミュージックアートマネージメント(M.A.M.)の概要を識る	シラバスに目を通す	テキストによる確認作業
	2	M.A.M.におけるプロデューサーの役割と業務①	テキストに目を通す	同上
	3	M.A.M.におけるプロデューサーの役割と業務②	同上	同上
	4	M.A.M.における企画書を作成する①	同上	同上
	5	M.A.M.における企画書を作成する②	同上	同上
	6	M.A.M.におけるスタッフの組織づくり	同上	同上
	7	M.A.M.における制作スタッフの役割と業務	同上	同上
	8	M.A.M.におけるコンサートホールを選ぶ①	同上	同上

	9	M.A.M.におけるコンサートホールを選ぶ②	同上	同上
	10	コンサートホールの舞台の機構を識る	同上	同上
	11	M.A.M.における音響	同上	同上
	12	M.A.M.における照明と映像	同上	同上
	13	M.A.M.における舞台設定および舞台美術	同上	同上
	14	M.A.M.における舞台上の楽器配置図、平面図を描く	同上	同上
	15	前期講義の総括とレポートの作成	同上	同上

使用教科書	KONISHI NOTE
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題・レポート	50%	前期講義内容の習得力。応用力。
	平常点	50%	疑問点への取組。受講態度。課題への取組。

科目名	アートマネージメントⅣ	科目ナンバリング	MC2M4N26		
担当者	小西 たくま				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修				ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	本校で上演されている「音 創造」「華麗なる音楽の祭典」を主題モデルとして、検証し、コンサートを自ら企画立案し、上演を可能にすること。また、それらについての検証が行えるようにする。			
授業の概要	コンサートを含むイベントの企画立案、実施を可能にするノウハウを習得する。 公演の上演に至る過程で必要な課題や役割を学ぶ。 アートマネージメントの実施現場の視察、見学。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ミュージックアートマネージメント(M.A.M.)における予算書を作成する	テキストに目を通す	テキストによる確認作業
	2	M.A.M.におけるスケジュールの作成をする①	同上	同上
	3	M.A.M.におけるスケジュールの作成をする②	同上	同上
	4	M.A.M.における舞台監督、インスペクターの役割と業務①	同上	同上
	5	M.A.M.における舞台監督、インスペクターの役割と業務②	同上	同上
	6	M.A.M.における音楽監督の役割と業務①	同上	同上
	7	M.A.M.における音楽監督の役割と業務②	同上	同上
	8	M.A.M.における演出家の役割と業務	同上	同上

	9	司会者、フロントスタッフの役割と業務	同上	同上
	10	舞台芸術と法律(著作権等)①	同上	同上
	11	舞台芸術と法律②	同上	同上
	12	決算書の作成、	同上	同上
	13	上演終了後の検証	同上	同上
	14	M.A.MIにおける総括	同上	同上
	15	アートマネジメントの全体総括とレポートの作成	同上	同上

使用教科書	KONISHI NOTE
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	課題・レポート	50%	講義内容の習得力。応用力。
平常点	50%	疑問点への取組。受講態度。課題への取組。	

科目名	和声学 I A(キーボードハーモニーを含む)	科目ナンバリング	MC2M1G25A		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	ABD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	和声学 I Aでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能และ和声を鍵盤上に適用し、音楽指導者として必要なハーモニー感、終止感、鍵盤力の基礎を習得し、音楽現場での実践力を養うことを目標とする。			
授業の概要	和音とコードを習得する。機能และ和声を学び、更にキーボードハーモニーとしての実践(カデンツ)と伴奏付けとして和音を活かす。総合的なソルフェージュとして実践する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション/学修内容の全体の説明。和声を学習するうえで必要な知識について。音階とコードネームについて。	テキストP13~15の予習	配布プリントの演習
	2	基本位置3和音の配置/声部、音域、配置(密集、開離)、高位等の知識から標準配置を理解する。/カデンツ(I-V7-I)長調	テキストP17~27の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	3	基本位置3和音の進行の制限、2音の関係、禁則(連続、並達)を理解し、基本位置3和音を連結する。/カデンツ(I-V7-I)長調	テキストP25~33の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	4	基本位置3和音の連結/II→Vの連結について/カデンツ(I-V7-I)短調	テキストP34~36の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	5	基本位置3和音の連結/V→VIの連結について/カデンツ(I-V7-I)短調	テキストP34~36の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	6	和音設定の原理と各種のカデンツを理解し、和音の設定を行えるようにする。/カデンツ(I-IV-V7-I)長調	テキストP37~41の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	7	基本位置3和音の連結を様々な調で行えるようになる。(移調)/カデンツ(I-IV-V7-I)長調	テキストP43~45の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	8	様々な調で実習した基本位置3和音の連結を移旋し短調でも行えるようになる。(移旋)/カデンツ(I-IV-V7-I)短調	テキストP46~48の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ

	9	基本位置3和音の連結の手順の確認及び解説／カデンツ(I -IV -V7- I)長・短調	テキストP17～48 基本位置3和音の復習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	10	基本位置3和音の連結の総括／カデンツ(I -IV-V7- I)長・短調	テキストP17～48 基本位置3和音の復習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	11	3和音の第1転回(I '、IV'、 V')の標準配置と連結について(1転 ⇄ 基本形、1転⇄1転)／カデンツと伴奏付け	テキストP49～53 の予習	和声課題・伴奏付け課題演習
	12	3和音の第1転回の標準連結／ II 'の配置・連結／カデンツ(I -IV -I 'V7- I)と伴奏付け	テキストP54～56 の予習	和声課題・伴奏付け課題演習
	13	1転3和音を含むバス課題の和音の設定・実施／カデンツ(I -IV -I 'V7- I)と伴奏付け	テキストP57～59 の予習	和声課題・伴奏付け課題演習
	14	1転3和音を含むバス課題の実施／カデンツ(I -IV -I 'V7- I)と伴奏付け	テキストP59～60 課題19の演習	課題19提出 (teams)伴奏付け課題演習
	15	和声学 I のまとめ	テキストP17～60 バス課題の復習	既習事項・資料のまとめ

使用教科書	和声 I 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	10%	積極的な取り組み、出席時数2/3以上
演習課題提出	20%	課題への取り組みを評価する	
定期試験	70%	実技試験(伴奏付け)筆記(和声課題)	

科目名	和声学 I B(キーボードハーモニーを含む)	科目ナンバリング	MC2M1C26B		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修		選択必修	ABD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	和声学 I Bでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能和声を鍵盤上に適用し、音楽経験者として必要なハーモニー感の基礎を習得する。総合的なソルフェージュ力の基礎を養うことを目標とする。			
授業の概要	和音とコードを習得する。和声の実習から機能和声を学び、更にキーボードハーモニーとしての実践と伴奏付けとして和音を活かす。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション／学修内容の全体の説明。和声を学習するうえで必要な知識について。音階とコードネームについて。	テキストP13～15の予習	配布プリントの演習
	2	基本位置3和音の配置／声部、音域、配置(密集、開離)、高位等の知識から標準配置を理解する。／カデンツ(I-V-I)長調	テキストP17～27の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	3	基本位置3和音の進行の制限、2音の関係、禁則(連続、並達)を理解し、基本位置3和音を連結／カデンツ(I-V-I)長調	テキストP25～33の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	4	基本位置3和音の連結／II→Vの連結について／カデンツ(I-V-I)長調	テキストP34～36の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	5	基本位置3和音の連結/V→VIの連結について／カデンツ(I-V-I)長調	テキストP34～36の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	6	和音設定の原理と各種のカデンツを理解し、和音の設定を行えるようにする。／カデンツ(I-IV-V-I)長調	テキストP37～41の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	7	基本位置3和音の連結を様々な調で行えるようになる。(移調)／カデンツ(I-IV-V-I)長調	テキストP43～45の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	8	様々な調で実習した基本位置3和音の連結を移旋し短調でも行えるようになる。(移旋)／カデンツ(I-IV-V-I)長調	テキストP46～48の予習	課題演習・提出 (teams)カデンツ

	9	基本位置3和音の連結の手順の確認及び解説／カデンツ(I -IV -V - I)長調	テキストP17～48 基本位置3和音の復習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	10	基本位置3和音の連結の総括／カデンツ(I -IV -V - I)長調	テキストP17～48 基本位置3和音の復習	課題演習・提出 (teams)カデンツ
	11	3和音の第1転回(I '、IV'、V')の標準配置と連結について(1転 ⇄ 基本形、1転 ⇄ 1転)／カデンツと伴奏付け	テキストP49～53 の予習	和声課題・伴奏付け課題演習
	12	3和音の第1転回の標準連結／II'の配置・連結／カデンツと伴奏付け	テキストP54～56 の予習	和声課題・伴奏付け課題演習
	13	1転3和音を含むバス課題の和音の設定・実施／カデンツと伴奏付け	テキストP57～59 の予習	和声課題・伴奏付け課題演習
	14	1転3和音を含むバス課題の実施／カデンツと伴奏付け	テキストP59～60 課題19の演習	課題19提出 (teams)伴奏付け課題演習
	15	和声学 I のまとめ	テキストP17～60 バス課題の復習	既習事項・資料のまとめ

使用教科書	和声 I 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	10%	積極的な取り組み、出席時数2/3
	演習課題提出	30%	課題への取り組みを評価する
	定期試験(筆記)	20%	和声課題
	定期試験(実技)	40%	カデンツ・伴奏付け

科目名	和声学ⅡA(キーボードハーモニーを含む)	科目ナンバリング	MC2M3T27A		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	ABD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	和声学ⅡAでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能と声楽を鍵盤上に適用し、音楽指導者として必要なハーモニー感、終止感、鍵盤力の基礎を習得し、音楽現場での実践力を養うことを目標とする。			
授業の概要	和音とコードを習得する。機能と声楽を学び、更にキーボードハーモニーとしての実践(カデンツ)と伴奏付けとして和音を活かす。総合的なソルフェージュとして実践する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	和声Ⅰ既習事項の確認。第2転回位置3和音の標準配置。2転バスの定型	テキストP61～64の予習	配布プリントの演習
	2	2転3和音を含むバス課題の実施/カデンツ(ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ)長調	テキストP64～65の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	3	2転3和音を含むバス課題の実施/カデンツ(ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ)長調	テキストP65～67の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	4	第1転回・第2転回を含むバス課題の総括/カデンツ(ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ)短調	テキストP61～67の復習・課題24	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	5	V7の和音について、構成音、配置、転回位置、限定進行音、バスの定型/カデンツ(ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ)短調	テキストP69～72の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	6	V7の和音の連結(V7→後続和音)限定進行音、V7 ² →Ⅰ ¹ の連結について/カデンツ(ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ)と伴奏付け	テキストP72～73の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	7	V7の和音の連結(先行和音→V7)バスの定型、和音設定について/カデンツ(ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ)と伴奏付け	テキストP73～76の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	8	V7を含むバス課題を様々な調で実習する。/カデンツ(ⅠⅡ ¹ -Ⅰ ² V7-Ⅰ)と伴奏付け	テキストP69～76のまとめ	配布プリントの演習(課題28)・カデンツトレーニング

9	V7転回型の和音の配置と連結の確認／コードネームによる副属七を含む和音の連結と様々なコードによる伴奏付け	テキストP69～76のまとめ	配布プリントの演習・伴奏課題の演習
10	V7の和音の連結(V7→VI)／コードネームによる副属七を含む和音の連結と様々なコードによる伴奏付け	テキストP77～79の予習	配布プリントの演習(課題30)・伴奏課題の演習
11	V7の根音省略の構成音、配置、連結について／コードネームによる副属七を含む和音の連結と様々なコードによる伴奏付け	テキストP80～83の予習	配布プリントの演習・伴奏課題の演習
12	V7の根音省略を含むバス課題／楽曲アナリーゼ(ブルグミュラー)／様々なコードによる伴奏付け	テキストP83～84の予習／分析用楽曲の演奏	配布プリントの演習(課題34)
13	V7の和音、第1転回、第2転回すべての連結を含むバス課題の演習／楽曲アナリーゼ(ブルグミュラー)／様々なコードによる伴奏付け	テキストP17～84のまとめ／分析用楽曲の演奏	配布プリントの演習
14	V7の和音、第1転回、第2転回すべての連結を含むバス課題の演習／様々なコードによる伴奏付け	テキストP17～84のまとめ	配布プリントの演習・伴奏課題の演習
15	和声学Ⅱのまとめ	テキストP17～84のまとめ、課題演習	既習事項・資料のまとめ

使用教科書	和声Ⅰ 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		平常点	10%
	演習課題提出	20%	課題への取り組みを評価する
	定期試験	70%	実技試験(伴奏付け)筆記(和声課題)

科目名	和声学ⅡB(キーボードハーモニーを含む)	科目ナンバリング	MC2M1C26B		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修			選択必修	ABD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	和声学ⅡBでは基本的な和音の学習と、西洋音楽の古典期に確立された機能และ声を鍵盤上に適用し、音楽経験者として必要なハーモニー感の基礎を習得する。総合的なソルフェージュカの基礎を養うことを目標とする。			
授業の概要	和音とコードを習得する。和声の実習から機能และ声を学び、更にキーボードハーモニーとしての実践と伴奏付けとして和音を活かす。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	和声Ⅰ既習事項の確認。第2転回位置3和音の標準配置。2転バスの定型	テキストP61～64の予習	配布プリントの演習
	2	2転3和音を含むバス課題の実施／カデンツ(Ⅰ-V-Ⅰ)短調	テキストP64～65の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	3	2転3和音を含むバス課題の実施／カデンツ(Ⅰ-V-Ⅰ)短調	テキストP65～67の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	4	第1転回・第2転回を含むバス課題の総括／カデンツ(Ⅰ-Ⅳ-V-Ⅰ)短調	テキストP61～67の復習・課題24	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	5	V7の和音について、構成音、配置、転回位置、限定進行音、バスの定型／カデンツ(Ⅰ-Ⅳ-V-Ⅰ)短調	テキストP69～72の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	6	V7の和音の連結(V7→後続和音)限定進行音、V7 ² →Ⅰ'の連結について／カデンツ(Ⅰ-Ⅳ-V-Ⅰ)短調と伴奏付け	テキストP72～73の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	7	V7の和音の連結(先行和音→V7)バスの定型、和音設定について／カデンツ(Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ)短調と伴奏付け	テキストP73～76の予習	配布プリントの演習・カデンツトレーニング
	8	V7を含むバス課題を様々な調で実習する。／カデンツ(Ⅰ-Ⅳ-V7-Ⅰ)短調と伴奏付け	テキストP69～76のまとめ	配布プリントの演習(課題28)・カデンツトレーニング

9	V7転回型の和音の配置と連結の確認／カデンツ(I-IV-I ² V7-I)短調と伴奏付け	テキストP69～76のまとめ	配布プリントの演習・伴奏課題の演習
10	V7の和音の連結(V7→VI)／カデンツ(I-IV-I ² V7-I)短調と伴奏付け	テキストP77～79の予習	配布プリントの演習(課題30)・伴奏課題の演習
11	V7の根音省略の構成音、配置、連結について／カデンツ(I-IV-I ² V7-I)(短調と伴奏付け)	テキストP80～83の予習	配布プリントの演習・伴奏課題の演習
12	V7の根音省略を含むバス課題楽曲アナリーゼ／カデンツ(I-IV-I ² V7-I)短調と伴奏付け	テキストP83～84の予習／分析用楽曲の演奏	配布プリントの演習(課題34)
13	V7の和音、第1・第2転回すべての連結を含むバス課題の演習／楽曲アナリーゼ／カデンツ(I-IV-I ² V7-I)長・短調と伴奏付け	テキストP17～84のまとめ／分析用楽曲の演奏	配布プリントの演習
14	V7の和音、第1・第2転回すべての連結を含むバス課題の演習／カデンツ(I-IV-I ² V7-I)長・短調と伴奏付け	テキストP17～84のまとめ	配布プリントの演習・伴奏課題の演習
15	和声学Ⅱのまとめ	テキストP17～84のまとめ、課題演習	既習事項・資料のまとめ

使用教科書	和声Ⅰ 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	10%	積極的な取り組み、出席時数2/3
演習課題提出	30%	課題への取り組みを評価する	
定期試験(筆記)	20%	和声課題	
定期試験(実技)	40%	カデンツ・伴奏付け	

科目名	和声学Ⅲ(キーボードハーモニーを含む)	科目ナンバリング	MC2M3T27		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	ABCDE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	各種音楽メーカーの採用試験、グレード試験にも対応できる実践力の基礎力を付け、伴奏付け、即興演奏、創作へと発展させる。感覚と理論を結びつけ、生き活きた演奏、伴奏を目指す。			
授業の概要	和声、キーボード・ハーモニーⅠ・Ⅱの応用と発展。和音を拡大し、様々な終止形を経験する。楽曲アナリーゼ、既成の曲の伴奏付けを通して、より豊かなハーモニーを習得する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション／和声Ⅰ・Ⅱの復習／Ⅱ ¹ 、Ⅰ ² Ⅴ7を含むカデンツ(長調)モーツァルト型・ショパン型、伴奏付け	テキストP15～19、課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)
	2	和声Ⅰ・Ⅱの復習／非和声音・準和声音、Ⅱ ¹ 、Ⅰ ² Ⅴ7を含むカデンツ(短調)モーツァルト型・ショパン型、伴奏付け	テキストP15～19、課題楽曲の演奏と和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	3	Ⅱ ¹ 、Ⅰ ² Ⅴ7を含むカデンツ(長・短調)モーツァルト型・ショパン型、伴奏付け、ナポリの6	テキストP15～19	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	4	副属7(V度調のⅤ)① カデンツ、半終止の用法について、アナリーゼ(ブルグミュラー第1番)・伴奏付け	テキストP52～ 課題7(伴奏付け、) テキストP19～20	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)
	5	副属7(V度調のⅤ)② カデンツ、アナリーゼ(ブルグミュラー第1番)・伴奏付け、コードによる4声体バス課題	課題演習(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)
	6	副属7(Ⅳ度調のⅤ)③ カデンツ、伴奏付け、様々な楽曲での使用例、コードによる4声体バス課題	課題演習(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	7	副属7(Ⅳ度調のⅤ)① カデンツ、準固有和音。Ⅳを含むカウンターラインについて	テキストP22～23、課題演習(伴奏付け)、課題楽曲の演奏	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)
	8	副属7(Ⅳ度調のⅤ)② カデンツ、伴奏付け、アナリーゼ(ブルグミュラー第2番)	テキストP52 課題2(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)

	9	副属7(Ⅳ度調のⅤ)③ カデンツ、伴奏付け、様々な楽曲での使用例、コードによる4声体バス課題	テキストP52～課題3、6(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	10	副属7(Ⅱ度調のⅤ)① カデンツ、伴奏付け、アナリーゼ(ブルグミュラー第9番)転調について	課題演習(伴奏付け)	課題演習(伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成)
	11	副属7(Ⅱ度調のⅤ)② カデンツ、伴奏付け	課題演習(伴奏付け)	課題演習(伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成)
	12	副属7(Ⅱ度調のⅤ)③ カデンツ、伴奏付け、様々な楽曲での使用例、コードによる4声体バス課題	課題演習(伴奏付け)	既習事項・資料のまとめ
	13	副属7を含むカデンツ・伴奏付けの総括① 伴奏付け、ピアノ曲として完成させ楽譜に書く	課題演習(伴奏付け)	課題演習(伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成)
	14	副属7を含むカデンツ・伴奏付けの総括② 伴奏付け、ピアノ曲として完成させ楽譜に書く	課題演習(伴奏付け)	課題演習(伴奏付け、ピアノ曲楽譜作成)
	15	Ⅲのまとめ	課題演習(伴奏付け)	既習事項・資料のまとめ

使用教科書	和声Ⅰ 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		平常点	10%
	演習課題提出	20%	課題への取り組みを評価する
	定期試験	70%	実技試験(伴奏付け)筆記(和声課題)

科目名	和声学Ⅳ(キーボードハーモニーを含む)	科目ナンバリング	MC2M3T28		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択			選択必修	ABCDE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	各種音楽メーカーの採用試験、グレード試験にも対応できる実践力の基礎力を付け、伴奏付け、即興演奏、創作へと発展させる。感覚と理論を結びつけ、生き活きた演奏、伴奏を目指す。			
授業の概要	和声・キーボード・ハーモニーⅠ・Ⅱ・Ⅲの応用と発展。和音を拡大し、様々な終止形を経験する。楽曲アナリゼ、既成の曲の伴奏付けを通して、より豊かなハーモニーを習得する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	和声学Ⅲの復習①カデンツの復習、伴奏付けを通して、非和声音を確認する。コードによる4声体バス課題	カデンツ練習、テキストP12～13	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	2	和声学Ⅲの復習②カデンツの復習、伴奏付け、移調、コードによる4声体バス課題	課題演習(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	3	副属7(VI度調のV)① カデンツの練習、伴奏付け、移調	テキストP52～課題1(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)
	4	副属7(VI度調のV)② カデンツの練習、伴奏付け、移調、コードによる4声体バス課題	テキストP52～課題3.10(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	5	副属7(Ⅲ度調のV)① カデンツ、短調から平行長調へ転調、伴奏付け	テキストP52～課題16(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)
	6	副属7(Ⅲ度調のV)② カデンツ、短調から平行長調へ転調、伴奏付け	テキストP52～課題17(伴奏付け)	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)
	7	転回とVI度 カデンツ練習、悲愴の2楽章のアナリゼ、コードによる4声体バス課題	悲愴の2楽章冒頭8小節の演奏と和音アナリゼ	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け、和声)
	8	Ⅱ度調のS→Ⅱ度調のV→Ⅱ カデンツ、楽曲中の使用例(オーラリー、モミの木)伴奏付け	課題楽曲の演奏と和音アナリゼ	カデンツ練習・課題演習(伴奏付け)

	9	反復進行ゼクエント、ドミナント進行 カデンツ、伴奏付け、コードによる4声体バス課題	課題楽曲の演奏と 和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け、和声)
	10	経過和音 aug.dim.などの経過和音のカデンツと使用例について	課題楽曲の演奏と 和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)
	11	カデンツと伴奏付けの総括① 副属7、ピカルディ終止、主音上のV等	課題楽曲の演奏と 和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)
	12	カデンツと伴奏付けの総括② ラインクリシェ、バスの半音進行によるカウンターライン、循環コードについて	課題楽曲の演奏と 和音アナリーゼ	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)
	13	総合練習① 様々なコードを楽曲にふさわしい転回形、伴奏形で使用しより音楽的な伴奏をつける	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)
	14	総合練習② 様々なコードを楽曲にふさわしい転回形、伴奏形で使用しより音楽的な伴奏をつける	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)
	15	IVのまとめ	カデンツ練習・課題 演習(伴奏付 け)	既習事項・資料の まとめ

使用教科書	和声 I 理論と実習(音楽之友社)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	10%	積極的な取り組み、出席時数2/3以上
	演習課題提出	20%	課題への取り組みを評価する
	定期試験	70%	実技試験(伴奏付け)筆記(和声課題)

科目名	ソルフェージュⅢA		科目ナンバリング	MC2M1G21A	
担当者	隈部 文				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科		開設学年	2年次	
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	BD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽の3要素を豊かに感じ、楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り音楽的に演奏できる力をつける。聴音、視唱、リズム、読譜を中心に、音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力を持つ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。			
授業の概要	音楽の基礎的なソルフェージュ能力を育成するために実作品にも触れながら聴音(単旋律・複旋律・和音・リズム)、視唱(単旋律・二声)、リズム(単純拍子・複合拍子)、読譜(高音部譜表・低音部譜表・大譜表・アルト譜表)を中心に様々な形態で学修する。また身体を通して音楽を感じ取るため、身体を動かしながら課題に取り組んでいく。学生の実態に応じて学修内容が多少変化する場合もある。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	・学修内容の説明 ・ソルフェージュⅠ・Ⅱの復習	ハ長調、イ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	2	・単旋律聴音(筆記)・リズム ・視唱(ヘ長調・ニ短調) ・読譜(高音部譜表①)	ヘ長調、ニ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	3	・単旋律聴音(筆記)・リズム ・視唱(ト長調・ホ短調) ・読譜(高音部譜表②)	ト長調、ホ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	4	・複旋律聴音・リズム ・視唱(二長調・ロ短調) ・読譜(低音部譜表①)	二長調、ロ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	5	・和声聴音・リズム ・視唱(変ロ長調・ト短調) ・読譜(低音部譜表②)	変ロ長調、ト短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	6	・リズム聴音・リズム ・視唱(イ長調・嬰ヘ短調) ・読譜(低音部譜表③)	イ長調、嬰ヘ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	7	1～6までの確認(確認テスト)	これまでの課題の復習	確認テストの復習
8	・音源を用いた名曲の聴音① ・リズム ・視唱(変ホ長調・ハ短調) ・読譜(大譜表①)	変ホ長調、ハ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習	

	9	・音源を用いた名曲の聴音② ・リズム ・視唱(ホ長調・嬰ハ短調) ・読譜(大譜表②)	ホ長調、嬰ハ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	10	・音源を用いた名曲の聴音③ ・リズム ・視唱(変イ長調・ヘ短調) ・読譜(アルト譜表①)	変イ長調、ヘ短調の音階を弾いて歌っておく	課題の復習
	11	・聴音 ・リズム ・視唱(重唱①) ・読譜(アルト譜表②)	これまでの課題の復習	課題の復習
	12	・聴音 ・リズム ・視唱(重唱②) ・読譜(アルト譜表③)	これまでの課題の復習	課題の復習
	13	・聴音 ・リズム ・視唱(重唱③) ・読譜	これまでの課題の復習	課題の復習
	14	総合演習	これまでの課題の復習	課題の復習
	15	まとめ	試験課題への取り組み	筆記試験、実技試験課題の復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	実技(リズム打ち・視唱)、筆記(聴音)
平常点	40%	積極的な取り組み、発表、課題提出	

科目名	ソルフェージュⅢB		科目ナンバリング	MC2M1C21B	
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通		開設学年	2年次	
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	ABD
備考	※音楽学科は卒業必修科目。未来創造学科は声優コースのみ選択可。				

授業のテーマ及び到達目標	ハ長調、ヘ長調、ト長調、イ短調を中心に、単純拍子、複合拍子の視唱、聴音(旋律課題、リズム課題、2声、和声課題)、弾き歌いなど、細分化されたリズムも習得し、読譜・記譜・演奏が出来るようになる。			
授業の概要	ソルフェージュⅠ・Ⅱで学修した基礎力をさらに高めるために、聴音(単旋律、和声、リズム)、視唱(単旋律)、リズム(単純拍子、複合拍子、混合拍子)をさまざまな形態で演習する。和声学やキーボードハーモニーの授業と連動させながら、ハーモニー(和音)とメロディーの関係を感じ、様々な要素を含む楽曲を題材にして、バランスの取れたソルフェージュ力を養い、表現や音に対する細やかな感覚を育てるための演習を行う。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明。ソルフェージュⅠ・Ⅱの内容理解の確認	ソルフェージュⅠ・Ⅱの復習。シラバスの熟読	課題の復習
	2	Cdur,Fdur,Gdur／単純拍子①(視唱、聴音、リズム、移動ド唱)	テキスト★★、コールユーブンゲンC: 抜粋課題	復習と課題の提出(teams)
	3	Cdur,Fdur,Gdur／単純拍子②(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★、コールユーブンゲンC:G:	復習と課題の提出(teams)
	4	Cdur,Fdur,Gdur／複合拍子①(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★、コールユーブンゲンC:G:F:	復習と課題の提出(teams)
	5	Cdur,Fdur,Gdur／複合拍子②(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★、コールユーブンゲンC:G:F:	復習と課題の提出(teams)
	6	Cdur,Fdur,Gdur／和音①(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★、カデンツ、弾き歌い課題	復習と課題の提出(teams)
	7	Cdur,Fdur,Gdur／和音②(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★、カデンツ、弾き歌い課題	復習と課題の提出(teams)
	8	amoll／単純拍子(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★	復習と課題の提出(teams)

	9	amoll／複合拍子(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★、 コールユーブンゲンa:	復習と課題の提出 (teams)
	10	amoll／和音(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★、カデンツ、弾き歌い 課題	復習と課題の提出 (teams)
	11	様々な調と拍子(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★、 No.49.50.57.58	復習と課題の提出 (teams)カデンツ トレーニング
	12	様々な調と拍子・転調①(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★、 No.60.61.62.63	復習と課題の提出 (teams)カデンツ トレーニング
	13	様々な調と拍子・転調②(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★、 No.69.70.71	復習と課題の提出 (teams)カデンツ トレーニング
	14	視唱(まとめ)／リズム(まとめ)／聴音／弾き歌い(I -IV-V - I) 長調・短調	課題のトレーニング	復習と課題の提出 (teams)カデンツ トレーニング
	15	ソルフェージュⅢのまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ・筆記試験 実技試験 課題の復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	全訳コールユーブンゲン(大阪開成館)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験(実技)	30%	リズム奏・視唱・弾き歌い
定期試験(筆記)	30%	聴音	
平常点	40%	積極的な取り組み、課題提出	

科目名	ソルフェージュⅣA		科目ナンバリング	MC2M1G22A	
担当者	隈部 文				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科		開設学年	2年次	
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	BCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	音楽の3要素を豊かに感じ、楽譜から読み取れる情報を正確に読み取り音楽的に演奏できる力をつける。聴音、視唱、リズム、読譜を中心に、音楽の基礎的なソルフェージュ能力を高め、より豊かで音楽的な表現力を持つ演奏家、音楽指導者への基礎を身に付ける。前期より難しい課題と幅広い内容に取り組む。				
授業の概要	音楽の基礎的なソルフェージュ能力を育成するために聴音(単旋律・複旋律・和音・リズム)、視唱(単旋律・二声)、リズム(単純拍子・複合拍子)、読譜(高音部譜表・低音部譜表・大譜表・アルト譜表)を中心に様々な形態で学修する。身体を通して音楽を感じ取り、身体を動かしながら課題に取り組んでいく。基礎訓練に加えフォルマシオン・ミュージカルにも取り組み、ソルフェージュを多角的に学んでいく。クラスの状況に応じて内容を変更することもある。				
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習	
	1	・学修内容の説明と導入 ・ソルフェージュⅢの復習	シラバスを確認しておく	課題の復習	
	2	・聴音 ・初見視奏 ・移調奏 ・視唱(様々な調)・移動ド唱法 ・伴奏付け	課題のトレーニング	課題の復習	
	3	・聴音 ・初見視奏 ・移調奏 ・視唱 ・移動ド唱法 ・伴奏付け	課題のトレーニング	課題の復習	
	4	・聴音 ・初見視奏 ・移調奏 ・視唱 ・移動ド唱法 ・伴奏付け	課題のトレーニング	課題の復習	
	5	・聴音 ・初見視奏 ・移調奏 ・視唱 ・移動ド唱法 ・伴奏付け	課題のトレーニング	課題の復習	
	6	・聴音 ・初見視奏 ・移調奏 ・視唱 ・移動ド唱法 ・伴奏付け	課題のトレーニング	課題の復習	
	7	1～6までの確認(確認テスト)	これまでの復習をしておく	確認テストの復習	
	8	・様々な楽器による聴音① ・視唱 ・フォルマシオン ミュージカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習	

	9	・様々な楽器による聴音② ・視唱 ・フォルマシオン ミュジカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習
	10	・様々な楽器による聴音③ ・視唱 ・フォルマシオン ミュジカル	聴音を担当する楽器について調べておく	課題の復習
	11	・聴音 ・視唱 ・フォルマシオン ミュジカルを考える	課題曲の学習内容について考えてくる	課題の復習
	12	・聴音 ・リズム アンサンブル ・視唱(重唱①)	これまでの課題の復習をしておく	課題の復習
	13	・聴音 ・リズム アンサンブル ・視唱(重唱②)	これまでの課題の復習をしておく	課題の復習
	14	総合演習	試験課題の確認	課題の復習
	15	まとめ	試験課題への取り組み	実技試験、筆記試験課題の復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	適宜プリントを配布する
参考書・参考資料等	必要に応じて紹介する

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	60%	実技(リズム打ち、視唱、他)筆記(聴音)
平常点	40%	積極的な取り組み、発表、課題提出	

科目名	ソルフェージュⅣB	科目ナンバリング	MC2M1C22B		
担当者	西林 博子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	選択必修		選択必修	ABD
備考	※音楽学科は卒業必修科目。未来創造学科は声優コースのみ選択可。				

授業のテーマ及び到達目標	ハ長調、ヘ長調、ト長調、イ短調を中心に、単純拍子、複合拍子の視唱、聴音(旋律課題、リズム課題、2声、和声課題)、弾き歌いなど、細分化されたリズムも習得し、読譜・記譜・演奏が出来るようになる。			
授業の概要	ソルフェージュⅠ～Ⅲで学修した基礎力をさらに高めるために、聴音(単旋律、和声、リズム)、視唱(単旋律)、リズム(単純拍子、複合拍子、混合拍子)をさまざまな形態で演習する。和声学やキーボードハーモニーの授業と連動させながら、ハーモニー(和音)とメロディーの関係を感じ、様々な要素を含む楽曲を題材にして、バランスの取れたソルフェージュ力を養い、表現や音に対する細やかな感覚を育てるための演習を行う。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業内容の説明。ソルフェージュⅢの内容理解の確認	ソルフェージュⅢの復習。シラバスの熟読	課題の復習
	2	様々な調と拍子・転調①(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★★★、No.73	復習と課題の提出(teams)
	3	様々な調と拍子・転調②視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★★★、No.74	復習と課題の提出(teams)
	4	様々な調と拍子・転調③視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★★★、No.75	復習と課題の提出(teams)
	5	和音とコード(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★★★、No.77	復習と課題の提出(teams)
	6	ベースラインについて(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★★★、No.78	復習と課題の提出(teams)
	7	旋律とオブリガートについて(視唱、聴音、リズム、移動ド唱、弾き歌い)	テキスト★★★★、No.79	復習と課題の提出(teams)
	8	様々な拍子／舞曲(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★★★、No.80	復習と課題の提出(teams)

	9	速度記号とテンポについて(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★★、 No.81	復習と課題の提出 (teams)
	10	様々な楽曲①(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★★、 No.82	復習と課題の提出 (teams)
	11	様々な楽曲②(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★★、 No.83	復習と課題の提出 (teams)カデンツ ツトレーニング
	12	様々な楽曲③(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★★、 No.84	復習と課題の提出 (teams)カデンツ ツトレーニング
	13	様々な楽曲④(視唱、聴音、リズム、弾き歌い)	テキスト★★★、 No.85	復習と課題の提出 (teams)カデンツ ツトレーニング
	14	視唱(まとめ)／リズム(まとめ)／聴音／弾き歌い(長調・短調)	課題のトレーニング	実技試験課題への 取り組み
	15	ソルフェージュⅣのまとめ	課題のトレーニング	資料のまとめ・筆記 試験実技試験課題の 復習

使用教科書	新・ソルフェージュ(教育芸術社),
	全訳コールユーブンゲン(大阪開成館)
参考書・参考資料等	適宜プリントを配布する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験(実技)	30%	リズム奏・視唱・弾き歌い
定期試験(筆記)	30%	聴音	
平常点	40%	積極的な取り組み、課題提出	

科目名	ソルフェージュV	科目ナンバリング	MC2M3G23		
担当者	中島 慧				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	選択必修		選択必修	BDE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	コードネームをベースにボイスイングや連結など、和声法の“声部”の知識を含め、実践的、応用的な表現を追求する。			
授業の概要	キーボードを使用し、格調のカデンツや借用和音を経由した発展的なコードを実践しながら感覚として引き出せるようにする。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション	シラバスの熟読	特になし
	2	インターバル、完全五度の説明と実習	特になし	課題の練習
	3	インターバル、長、短3度の説明と実習	前回の復習	課題の練習
	4	インターバルとコードの説明と実習 トライアドコードの構成音	前回の復習	課題の実習
	5	テトラッドコードの構成音とその形態と実習	前回の復習	課題の実習
	6	転回形の説明と実習	前回の復習	課題の実習
	7	ピアノコード奏法(トライアド) ベース音と第一転回形	前回の復習	課題の実習
	8	ピアノコード奏法(トライアド) ベース音と第二転回形	前回の復習	課題の実習

	9	ピアノコード奏法(テトラッド) ベース音と基本形	前回の復習	課題の実習
	10	ピアノコード奏法(テトラッド) ベース音と第一転回形	前回の復習	課題の実習
	11	ピアノコード奏法(テトラッド) ベース音と第二転回形	前回の復習	課題の実習
	12	ピアノコード奏法(テトラッド) ベース音と第三転回形	前回の復習	課題の実習
	13	実践Ⅰ ～簡単なコード進行をメロディと合わせて～	前回の復習	課題の実習
	14	実践Ⅱ ～複雑なコード進行をメロディと合わせて～	前回の復習	課題の実習
	15	セッション式の発表会	前回の復習	特になし

使用教科書	適宜プリントを配布
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	予習・復習、授業の取り組みの態度
発表会評価	50%	課題の取り組み	

科目名	ソルフェージュVI	科目ナンバリング	MC2M3G24		
担当者	中島 慧				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	選択必修		選択必修	BDE
備考					

授業のテーマ及び到達目標	譜面から多くのことを読みとる力をつける。高度な視唱・弾き歌い・移調奏ができるようになる。			
授業の概要	演奏・鑑賞・制作あるいは音楽教育活動等に必要ソルフェージュカを、実践を通して身につけていく。学生の専門性や進路を視野に入れながら演習を行う。 *ソルフェージュVと合わせて受講することが望ましい。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション	シラバスの熟読	特になし
	2	声部と連結Ⅰ ～標準連結～	前回の復習	課題の実習
	3	声部と連結Ⅰ ～標準外連結～□	前回の復習	課題の実習
	4	ドミナントモーション	前回の復習	課題の実習
	5	Ⅱm7-V7連結モーション	前回の復習	課題の実習
	6	振り返り	前回の復習	課題の実習
	7	エクステンデッドドミナント	前回の復習	課題の実習
	8	エクステンデッドモーションとゼクエンツ	前回の復習	課題の実習

	9	ファンクションと代理和音 ～プライマリファンクションによる置き換え～	前回の復習	課題の実習
	10	ファンクションと代理和音 ～セカンダリファンクションによる置き換え～	前回の復習	課題の実習
	11	メロディ付きボイスング	前回の復習	課題の実習
	12	視唱と伴奏	前回の復習	課題の実習
	13	Jazzボイスング	前回の復習	課題の実習
	14	実践Ⅲ ～複雑なコード進行を視唱と合わせて～	前回の復習	課題の実習
	15	セッション式の発表会	前回の復習	特になし

使用教科書	適宜プリントを配布
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	50%	予習・復習、授業の取り組みの態度
発表会評価	50%	課題の取り組み	

科目名	弾き歌い I	科目ナンバリング	MC2M3T50		
担当者	光永 育				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			選択必修	BD
備考	※音楽療法コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	弾き歌いの基本的事項(コード奏、アレンジ、伴奏法)などについて自在に扱える技術を身につける。また各自の課題曲について、演奏技術の向上を目的とする			
授業の概要	弾き歌いの基本的事項(コード奏、アレンジ、伴奏法)を理解する。また学生各自のレベルに応じたピアノ実技、声楽実技、伴奏力などの技術の向上を目指し、各自で自分の課題曲の練習、また個人レッスンを行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション、弾き歌いで必要な学習事項を理解し、授業の進め方を把握する	シラバスの熟読	課題曲の決定
	2	全調の主要三和音のコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	プリントを熟読する 各自の課題曲練習	＃♭1つまでの主要三和音を練習する
	3	メジャー、マイナーコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	コード名から音を弾く練習をする
	4	ディミニッシュ、セブンスコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	コード名から音を弾く練習をする
	5	その他のコードを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	コード名から音を弾く練習をする
	6	伴奏形のアレンジを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	伴奏形をアレンジして提示曲を弾き歌いする
	7	伴奏形のさらなるアレンジを理解し、提示曲を弾く。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	伴奏形をアレンジして提示曲を弾き歌いする
	8	コードの読み替えを理解し、提示曲を移調する。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	伴奏形をアレンジして提示曲を弾き歌いする

	9	コードの読み替えを理解し、提示曲を移調する。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	伴奏形をアレンジして提示曲を弾き歌いする
	10	童謡・唱歌の成り立ち、歌詞の意味についても理解し演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	提示曲を弾き歌いする
	11	中学校音楽の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	提示曲を弾き歌いする
	12	高等学校音楽の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	提示曲を弾き歌いする
	13	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする
	14	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏。各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする
	15	まとめ 各自の課題曲による弾き歌いの試験	各自の課題曲練習	コード伴奏で様々な曲を弾き歌いする

使用教科書	プリントを適宜配付
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、弾き歌い課題への取り組み
期末試験	80%	弾き歌い試験	

科目名	弾き歌いⅡ	科目ナンバリング	MC2M3T51		
担当者	光永 育				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	1年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	※			選択必修	BD
備考	※音楽療法コース必修				

授業のテーマ及び到達目標	各自の課題曲について、演奏技術を向上し、将来、音楽教育や音楽療法の現場、またいろいろな音楽活動ステージで豊かな音楽性あふれる弾き歌いができることを目標とする			
授業の概要	弾き歌いⅠで習得した技術をさらに高める。特に基本的リズムパターンを理解し、様々な楽曲の伴奏形を考え演奏する。各自自分の課題曲を練習、また個人レッスンを行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 夏休みの課題発表	シラバスの熟読	課題曲の決定
	2	2、4ビートのリズムパターンを学び、提示曲を弾く 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	3	スウィング・4ビートのリズムパターンを学び、提示曲を弾く 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	4	8ビートのリズムパターン(基本形、パンプ)を学び、提示曲を弾く 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	5	8ビートの様々なリズムパターンを学び、提示曲を弾く 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	6	伴奏形とともに曲に合わせた声の使い方について学び、提示曲を弾き歌いする 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	7	ブルース、スローロックのリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	8	ブギウギのリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する

	9	タンゴのリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	10	ラテンの代表的なリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	11	ワルツのリズムパターンを学び、提示曲を弾き歌い 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	12	これまで学んだリズムパターンを基に、曲の雰囲気さをさらに演出できる伴奏形を考える 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	学んだリズムパターンを使って指示曲を練習する
	13	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする
	14	各自の試験の課題曲について背景を発表し、演奏 各自の課題曲レッスン	各自の課題曲練習	注意点を考慮し、試験課題を弾き歌いする
	15	まとめ 各自の課題曲による弾き歌いの試験	各自の課題曲練習	コード伴奏で様々な曲を弾き歌いする

使用教科書	プリントを適宜配付
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	授業への集中、弾き歌い課題への取り組み
期末試験	80%	弾き歌い試験	

科目名	日本の伝統音楽 I (日本の伝統的な歌唱を含む。)	科目ナンバリング	MC2M3C52		
担当者	二宮 晶代				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修			ABDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	ほとんどの学生は、意識することなく『西洋音楽』を学んでいる。日本には、他の文化と同様に長い歴史をもつ多様な音楽や楽器があり、西洋音楽とは違った旋律や音色や表現方法があることを理解することを目標とする。また小中学校の教育課程に日本音楽が取り入れられており、教職を志望する学生は必要な知識を習得することをねらいとする			
授業の概要	日本の伝統音楽とその歴史的な推移を理解するとともに、多様な音楽を鑑賞し、それぞれの音楽の特徴を理解する。箏曲については、楽器の特徴や演奏法を理解し、初歩的な楽曲の演奏を行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	(古代音楽 1) 日本の伝統音楽の概観を理解する。古代音楽について理解する	シラバスを読み、授業の概要、目標を理解する	西欧音楽と対比して日本の伝統音楽について考察する
	2	(古代音楽 2) 前回到続き、古代音楽について、資料、DVD、CD等により理解を深める	前回の資料、講義を復習する	歴史的流れを考え、日本音楽の全貌を考える
	3	(雅楽 1) 雅楽について、その歴史や表現方法を理解する	インターネット等で関連事項を検索する	DVDやCDを鑑賞する
	4	(雅楽 2) 前回到続き雅楽について、資料、DVD、CD等により理解を深める	前回の資料、講義を復習する	社寺の雅楽演奏を見学する
	5	(琵琶楽 1) 琵琶楽について、その歴史や表現方法を理解する	インターネット等で関連事項を検索する	琵琶のしくみや歴史を考察する
	6	(琵琶楽 2) 学外講師による実技演奏予定 楽器としての琵琶やその演奏を実際に体験する	薩摩琵琶、筑前琵琶等の歴史を調べる	演奏体験をもとに琵琶の特徴を考察する
	7	(声明) 声明について、その歴史や表現方法を理解する	日本の仏教における音楽の役割を考える	声明のリズム、内容を体感する
	8	(能楽) 能楽について、その歴史や表現方法を理解する	能楽以前の伝統音楽からの流れを考える	能楽の構成や歴史を考察する

	9	(文楽) 文楽について、その歴史や表現方法を理解する	インターネット等で 関連事項を検索 する	TVや舞台を鑑賞 する
	10	(歌舞伎) DVD、CDを使用し講義、特に歌舞伎音楽について理解する	インターネット等で 関連事項を検索 する	TVや舞台を鑑賞 する
	11	(箏曲 1) 生演奏を聴き、箏曲を体感する。またその歴史や特徴を理解する	インターネット等で 関連事項を検索 する	実際に楽器に触 れて、音色を確認 する
	12	(箏曲 2) 実技指導。楽器の基礎を理解し、全員が演奏体験をする	練習用楽器で各 自、箏の練習をす る	音階、リズム、音 色を体感する
	13	(箏曲 3) 実技練習。初歩的な曲の実技試験	練習用楽器で各 自、箏の練習をす る	西洋音階との関 連を理解し、日本 音階を作成する
	14	(歌唱法)地歌(箏曲の歌)を理解し、発声の練習をする	声明、琵琶楽、能 楽の歌を聴く	西洋音楽と日本 音楽の声の出し 方を考察する
	15	(まとめ) 筆記試験を行う	全講義の資料を 整理する 箏の練習をする	全講義の資料を 見直し、全体像を 確認する

使用教科書	必要な資料を配付
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	筆記試験	50%	基礎的な内容の確実な理解度
実技試験(箏曲)	30%	初歩的な曲に対する真摯な取り組み	
平常点(授業態度)	20%	積極的な授業態度。無断欠席がないこと	

科目名	日本の伝統音楽Ⅱ(和楽器を含む。)	科目ナンバリング	MC2M3C53		
担当者	二宮 晶代				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修			ABDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	『日本の伝統音楽Ⅰ』に引き続き、日本の多様な音楽、楽器に対する理解を深めることをねらう			
授業の概要	箏に加えて、三味線、尺八等の基本的な実技演奏の練習を通じて、多様な拍子、旋律、奏法、表現方法等を学び、日本の伝統音楽、伝統文化について理解を深めていく。教職を志望する学生は、必要な知識を習得し、教員採用試験についての準備も行う			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	(三味線音楽 1) 三味線音楽について、その歴史や表現方法を理解する	インターネット等で関連事項を検索する	三味線音楽の音階を作成する
	2	(三味線音楽 2) 実技指導。楽器の基礎と音階を理解し、全員が演奏体験をする	三味線の音階の特徴を調べる	三味線の音階、リズムを考察する
	3	(三味線音楽 3) 実技練習。実技練習後、初歩的な曲を合奏する	三味線が弾けるよう練習する	三味線の楽譜を見て、音階、リズムを理解する
	4	(尺八 1) DVD、CD、資料で尺八の歴史や表現方法を理解する	インターネット等で関連事項を検索する	楽器の構造と特徴を考察する
	5	(尺八 2) 実技指導。楽器の基礎と音階を理解し、全員が演奏体験をする	尺八の音階について調べる	尺八のリズムや音階を考察する
	6	(尺八 3) 実技練習。五線譜と尺八楽譜の違いを理解し、演奏する	尺八の音の出し方を研究する	三曲(箏、三味線、尺八の合奏)について考察する
	7	(和太鼓 1) DVD、CD、資料で和太鼓の演奏や表現を理解する	インターネット等で演奏を鑑賞する	和太鼓や日本の打楽器について調べる
8	(和太鼓 2) 実技指導。楽器の基礎を理解し、全員が演奏体験をする	和太鼓のリズムや楽器構成等を調べる	西洋打楽器と和太鼓の相違を考察する	

	9	(横笛) DVD、CD、資料で横笛の歴史や表現方法を理解する	インターネット等で 関連事項を検索 する	社寺等の楽器演奏 を鑑賞する
	10	(レポート指導 1) 西洋音楽と日本の伝統音楽についてのレポート提出する	講義資料や書籍、 ネット等で研究する	レポートの考察を する
	11	(レポート指導 2) 全体的講評とともに、個別に指導する	講義資料や書籍、 ネット等で研究する	レポートの考察を する
	12	(現代邦楽) 多弦箏の生演奏を鑑賞する	十七弦、二十弦箏 について調べる	多弦箏が開発され た歴史や意味 を考察する
	13	(邦楽合奏) 箏、三味線と西洋楽器との合奏を鑑賞する	合奏可能な曲目を 調べる	それぞれの楽器 で練習する
	14	(まとめ 1) 前期、後期の学習のまとめ	全講義の資料プリ ントを持参する	全講義の資料プリ ントの確認と考察 する
	15	(まとめ 2) 音楽教職課程のまとめと模擬試験	全講義の資料プリ ントを持参する	教員採用試験の 準備をする

使用教科書	必要な資料を配付
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	筆記試験	50%	基礎的な内容の確実な理解度
実技試験(箏曲)	30%	初歩的な曲に対する真摯な取り組み	
平常点(授業態度)	20%	積極的な授業態度。無断欠席がないこと	

科目名	ポピュラー音楽研究	科目ナンバリング	MC2M3N29/VA2M2N44		
担当者	柴田 英次				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	両学科共通	開設学年	※		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				
備考	※音楽学科:3年次 未来創造学科:2年次				

授業のテーマ及び到達目標	ポピュラー音楽の文化的・歴史的背景を理解し社会との相互作用を考察する。またその創作過程の分析や多様な音楽ジャンルの特徴、メディアや音楽産業との関わりを学生自身の音楽活動や教育活動、研究活動などに活用する。			
授業の概要	ポピュラー音楽の起源から現代までの進化を紹介し、各時代の社会・文化的背景を考察する。作曲、編曲、録音、パフォーマンスなど、ポピュラー音楽がどのように形作られるのかを理解する。音楽だけでなく、それを取り巻く人々や社会の動きを学び、その理解を通じて、自分自身の視野を広げる。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	ポピュラー音楽の歴史:ヨーロッパで発祥しアメリカで発展したポピュラー音楽の歴史を学ぶ。	MTVとは何か調べる。	授業内容を元に各時代の音楽を聞く。
	2	ポピュラー音楽の発展に寄与した人物達	THE BEATLESの曲を聞く。	授業に出てきた他のアーティストの曲を聞く。
	3	革新的な演奏法やフレーズ、作編曲法等でポピュラー音楽の発展に寄与した人物たち	ドラムス、ギター、ベースの楽器の特徴を理解する。	授業に出てきたアーティストの曲を聞く。
	4	音楽の制作現場:現代のJ POPのアーティスト達の録音、制作の様子	ミキサー、ブース、キューボックスとは何か理解する。	授業に出てきたアーティストの曲を聞く。
	5	音楽制作用機材の変遷と現在	1930年代の音楽を聞く	1990年代の音楽を聞く。
	6	ストリーミングサービスやSNSが音楽の消費方法やアーティストのキャリアに与える影響	NOVELBRIGHTのSNS戦略を調べる	授業に出てきた他のアーティストの曲を聞く。
	7	野外フェス VRフェス等フェス	SANTANAの音楽を聞く。	できればフェスに行きましょう。
	8	歌詞、歌唱法等歌に関する考察	歌が上手いと思うアーティストの歌唱をよく聞きこむ。	授業に出てきた他のアーティストの曲を聞く。

使用教科書	
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント

科目名	音楽科教育法 I	科目ナンバリング	MC2M3C31		
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修		選択必修	ABEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>「音楽科では何を学ぶか」</p> <p>学習指導要領の内容を読み解き、教科の目標及び学年の目標、さらに、各領域における指導内容を理解し、学習活動案を作成することができる。</p>			
授業の概要	<p>学習指導要領の内容を読み解くことを通して、身につけさせたい資質能力について理解を深める。</p> <p>また、ボランティア活動を通して得た生徒の実態や実践例の研究で得た指導の工夫点を活かして、自分なりの本時展開案をつくることことができる。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	音楽科教育と育てたい力 ・学力の三要素と資質能力の三つの柱	シラバスを熟読しておく	「めざす音楽の授業像」について自分の考えをまとめる
	2	中学校音楽科の目標[共通事項] ・音楽科の見方、考え方	学習指導要領解説編の当該箇所を読んでおく	目標と音楽を形づくっている要素を一覧にまとめる
	3	音楽科の内容 A「表現」(1)歌唱の内容 変声期の指導	学習指導要領解説各学年の(1)p109を読んでおく	歌唱の指導内容をまとめる
	4	音楽科の内容 A「表現」(1)歌唱の内容 合唱指導と共通教材	学習指導要領解説各学年のA(1)を読んでおく	指導のポイントをまとめる
	5	音楽科の内容 A「表現」(2)器楽の内容 ※リコーダーを持参(ソプラノかアルト)	学習指導要領解説各学年のA(2)を読んでおく	器楽の指導内容をまとめる
	6	音楽科の内容 A「表現」(3)創作の内容 ※リコーダーを持参(ソプラノかアルト)	学習指導要領解説各学年のA(3)を読んでおく	創作の指導内容をまとめる
	7	音楽科の内容 B「鑑賞」の内容と配慮事項 ※リコーダーを持参(ソプラノかアルト)	学習指導要領解説各学年のBを読んでおく	鑑賞の指導内容をまとめる
	8	授業をのぞいてみよう (中学校の授業観察)	質問したいことを準備	学習活動についての気づきをまとめる

	9	授業づくりに挑戦 ・教材研究の方法 「夏の思い出」	「夏の思い出」の 弾き歌いを練習し ておく	教材の特徴をまと める
	10	授業づくりに挑戦 ・教材研究したことの発表	教材研究したこと の発表準備をして おく	教材の特徴をまと める
	11	学習活動を構想しよう ・目標に迫る学習活動の工夫	中学生の実態を 考えた学習活動を 考える	1単位時間分の 学習活動を考える
	12	学習活動構想のプレゼンテーシ ・グループ内で発表し意見交換	プレゼンテーシ ョンの準備をしてお く	気づきをもとに自 作の学習活動構 想を見直す
	13	学習活動構想のプレゼンテーション ・グループ代表は全体で発表 ・模擬授業準備	学習指導案を提 出	自分の構想を学 習指導案としてま とめる
	14	代表授業と検討会A ・学習活動の流れと発問	代表者は授業の 準備。他は配布資 料を熟読しておく	改善の視点から 自作の学習活動 案を見直し修正す る
	15	代表授業と検討会B ・生徒主体と教師の支援 レポート課題の提示	代表者は授業の 準備。他は配布資 料を熟読しておく	改善の視点から 自作の学習活動 案を見直し修正す る

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	高等学校学習指導要領解説編芸術(平成30年)(教育出版),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	レポート	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
課題検討の取り組み	40%	事前事後学修の内容や意見、積極的参加	
教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解	
毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え	

科目名	音楽科教育法Ⅱ	科目ナンバリング	MC2M3C32		
担当者	中村 理恵				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	音楽学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	必修		選択必修	ABEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>「生徒の主体的な学びを促す授業を構想しよう」</p> <p>学習指導要領の内容や教材曲の音楽的特徴をもとに選択した題材に、生徒が意欲をもって取り組むような指導を構想し、題材の指導計画にまとめることができる。</p>			
授業の概要	<p>生徒主体の学習活動を工夫することや教育支援ボランティア活動における指導体験を通して、生徒主体の視点に立った授業づくりについての理解とその方法を身につける。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教師への道 ・自身の人となり(人間性) ・授業づくりに向かう意欲 ・音楽性	心に残っている音楽の授業についてまとめておく	三つのことについて考えをまとめる
	2	教科書をもとに、学習指導をイメージしよう ・歌唱曲の演奏	研究したい曲について調べる	提示された曲の伴奏を練習しておく
	3	教材研究の視点を考えよう ・曲の背景を探る ・音楽の特徴 ※できるだけパソコン持参	研究したい曲について調べる	パワーポイントを用いてまとめる
	4	選択した楽曲の教材性を発表① グループ内⇒全体	作成した資料をチームズで提出	分析した内容をまとめておく
	5	選択した楽曲の教材性を発表② 全体	発表の準備	選択した楽曲の弾き歌いを練習しておく
	6	生徒主体の授業づくりに挑戦 ・目標と指導計画	選択した楽曲の弾き歌いを練習しておく	選択した楽曲の目標と指導計画をまとめる
	7	本時の展開 ・本時の目標と評価 ・導入の工夫	選択した楽曲の弾き歌いを練習しておく	導入の学習活動をまとめる
8	本時の展開 ・本時の主活動 ・まとめ	めあてを確かめて、どのような展開にするか考えておく	本時の展開をまとめる	

	9	模擬授業① 15分×4 ・感想交流	模擬指導の準備をする	感想をまとめ、模擬授業の準備をする
	10	模擬授業② ・感想交流	模擬授業の準備をする	感想をまとめ、模擬授業の準備をする
	11	模擬授業③ ・感想交流	模擬授業の準備をする	感想をまとめ、模擬授業の準備をする
	12	模擬授業④ ・感想交流	模擬授業の準備をする	感想をまとめ、模擬授業の準備をする
	13	模擬授業⑤ ・感想交流	模擬授業の準備をする	感想をまとめ、作成した指導案を校正する。
	14	模擬授業⑥ ・感想交流	模擬授業の準備をする	感想をまとめ、作成した指導案を校正する。
	15	生徒の実態に応じた指導 ・特別に支援を要する生徒への指導 レポート課題の提示	シラバスをふりかえる	配布資料をまとめる

使用教科書	中学校学習指導要領解説音楽編(平成29年)(教育芸術社),
	高等学校学習指導要領解説編芸術(平成30年)(教育出版),
	中学生の音楽1(教育芸術社),
	中学生の音楽2・3上下(教育芸術社)
参考書・参考資料等	授業中、適宜、参考書の紹介や資料の配付をする

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	模擬授業と発表	40%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
	課題検討の取り組み	40%	学習指導案、積極的参加
	教育支援ボランティア	10%	ボランティアの取り組みと生徒理解
	毎時間の振り返り	10%	課題についての理解度、自分の考え